

O S H U

第2次奥州市総合計画後期基本計画 2022～2026

資料編



奥州市

目次

総合計画策定の経過	2
奥州市総合計画審議会条例	4
奥州市総合計画審議会委員名簿	5
第2次奥州市総合計画後期基本計画（案）について（諮問）	6
第2次奥州市総合計画後期基本計画（案）について（答申）	7
奥州市総合計画策定委員会設置要綱	8
奥州市総合計画策定委員会委員名簿	10
令和3年度市民アンケート調査結果	11
ワークショップ「TNGR（つながる）」実施結果	56
奥州市版SDGsについて	61
用語索引と解説	67

◇合併検証結果については、合併検証報告書本編並びに資料編（令和3年9月作成）に掲載されています。

◇合併検証報告書は奥州市公式ホームページで公開しています。



URL <https://www.city.oshu.iwate.jp/soshiki/1/44701.html>



総合計画策定の経過

年 月 日	内 容
令和3年 3月15日	令和2年度第1回奥州市総合計画策定委員会 (策定方針案及び策定要領案、マニフェストサイクル案の検討)
3月18日	令和2年度第2回奥州市総合計画審議会 (策定方針案の説明)
4月16日	奥州市総合計画策定委員会設置要綱の改正 (構成員の見直し、ワーキンググループの設置)
4月16日	市議会全員協議会 (策定方針案の説明)
4月19日	庁議 (策定方針及び策定要領の決定)
4月26日	第1回奥州市総合計画策定委員会ワーキンググループ会議 (策定方針及び策定要領、策定に係る説明)
5月1日 ～5月31日	市民アンケートの実施
5月19日	令和3年度第1回奥州市総合計画策定委員会 (後期基本計画体系図素案の検討)
5月24日	令和3年度第1回奥州市総合計画審議会 (後期基本計画体系図素案の審議)
5月28日	第2回奥州市総合計画策定委員会ワーキンググループ会議 (成果指標設定の考え方及びSDGsの研修、策定に係る説明)
6月4日	令和3年第2回市議会定例会 (基本計画議決事件条例改正案の議決)
6月30日	第2回奥州市総合計画策定委員会 (部門別計画素案の検討)
7月2日	奥州市総合計画審議会 第3分科会 (部門別計画大綱4(農林業・商工業・観光物産・雇用)素案の審議)
7月5日	奥州市総合計画審議会 第4分科会 (部門別計画大綱5(環境・市民生活・防災)・大綱6(都市整備・公共交通・情報)素案の審議)
7月6日	奥州市総合計画審議会 第1分科会 (部門別計画大綱1(総務・市民協働・芸術文化・生涯学習・スポーツ)素案の審議)
7月6日	奥州市総合計画審議会 第2分科会 (部門別計画大綱2(教育・歴史遺産)・大綱3(健康・福祉・医療)素案の審議)
7月15日	ワークショップ「TNGR(つながる)」 (包括連携協定締結企業等の協力による若者世代の意見聴取)
8月4日	第3回奥州市総合計画策定委員会 (後期基本計画中間案の検討)
8月17日	第2回奥州市総合計画審議会 (後期基本計画中間案の審議)
8月18日	市議会全員協議会 (後期基本計画中間案の説明及び意見提出依頼)
8月25日	胆沢地域会議 (後期基本計画中間案の説明及び意見聴取)
8月26日	前沢地域会議 (後期基本計画中間案の説明及び意見聴取)
8月30日	江刺地域会議 (後期基本計画中間案の説明、及び意見聴取)
8月30日	第3回奥州市総合計画策定委員会ワーキンググループ会議 (奥州市版SDGsの検討及び各施策との関連付け、策定に係る説明)
9月17日	衣川地域会議 (後期基本計画中間案の説明及び意見聴取)
9月22日	水沢地域会議 (後期基本計画中間案の説明及び意見聴取)
9月28日	第4回奥州市総合計画策定委員会 (後期基本計画中間案に対する市議会意見の反映に係る検討)

総合計画策定の経過

年 月 日	内容
10月1日 ～10月8日	市政懇談会による市民説明 (後期基本計画中間案の説明)
10月1日 ～10月20日	後期基本計画中間案へのパブリックコメント募集
10月18日	市議会全員協議会 (後期基本計画中間案に対する市議会意見の反映等の説明)
10月27日	第5回奥州市総合計画策定委員会 (後期基本計画最終案の検討)
11月8日	第3回奥州市総合計画審議会 (後期基本計画最終案の審議及び諮問)
11月18日	臨時庁議 (総合計画審議会への諮問内容の変更)
11月19日	第4回奥州市総合計画審議会 (後期基本計画最終案に対する答申案の審議及び市長への答申)
11月26日	市議会全員協議会 (後期基本計画案の説明)
令和4 1月12日	庁議 (後期基本計画案の決定)
2月1日	令和4年第1回市議会定例会 (後期基本計画の議決)

○奥州市総合計画審議会条例

(平成18年5月15日条例第343号)

改正 平成20年3月7日条例第3号 平成24年3月21日条例第10号 平成30年2月5日条例第11号

(設置)

第1条 市政の総合的な計画の策定及び推進に関する重要事項の調査及び審議を行わせるため、市長の附属機関として奥州市総合計画審議会(以下「審議会」という。)を置く。

(組織)

第2条 審議会は、委員40人以内で組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから市長が委嘱する。

(1) 奥州市地域会議条例(平成29年奥州市条例第30号)第4条第2号から第6号までに規定する奥州市地域会議の委員

(2) 公共的団体等の役員又は職員

(3) 学識経験者

(4) 公募による者

3 委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、委員が欠けた場合における後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会長)

第3条 審議会に委員の互選により会長を置く。

2 会長は、会務を総理し、会議の議長となる。

3 会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、あらかじめ会長が指定する委員がその職務を代理する。

(会議)

第4条 審議会は、市長が招集する。

2 審議会の会議は、委員の定数の半数以上が出席しなければ開くことができない。

3 審議会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(庶務)

第5条 審議会の庶務は、総務企画部政策企画課において処理する。

(委任)

第6条 この条例に定めるもののほか、審議会の運営その他に関し必要な事項は、市長が別に定める。

附 則

この条例は、公布の日から施行する。

附 則(平成20年3月7日条例第3号)

この条例は、平成20年4月1日から施行する。

附 則(平成24年3月21日条例第10号)

この条例は、平成24年4月1日から施行する。

附 則(平成30年2月5日条例第11号)

(施行期日)

1 この条例は、平成30年4月1日から施行する。

(経過措置)

2 この条例の施行の際現に奥州市総合計画審議会の委員である者(改正前の第2条第2項第1号に規定する者に限る。)は、その任期中に限り、奥州市総合計画審議会の委員として在任する。

3 前項に規定する委員が在任する間、改正後の第2条第2項第1号の規定は、適用しない。

奥州市総合計画審議会委員名簿

(任期：令和2年10月2日から令和4年10月1日まで) ※敬称略

区分	団体等	氏名	性別	備考	分科会
1号委員	水沢地域会議	遠藤清逸	男	会長	—
	江刺地域会議	及川公	男		第2分科会長
	前沢地域会議	吉田あや子	女		第4
	胆沢地域会議	小野寺功	男		第3分科会長
	衣川地域会議	三浦賢一	男	令和3年5月23日まで	第1
		高橋厚	男	令和3年5月24日から	第1
2号委員	奥州商工会議所	菊地浩明	男		第3
	岩手江刺農業協同組合	佐藤たき子	女		第3
	社会福祉法人奥州市社会福祉協議会	大内薫	男		第2
	奥州市芸術文化協会	鈴木美喜子	女		第1
	奥州市環境市民会議「奥州めぐみネット」	若生和江	女	会長職務代理者	第4
	公益社団法人水沢青年会議所	浅利祐輔	男	令和3年5月23日まで	第1
		佐藤恒一	男	令和3年5月24日から	第1
	奥州市消防団	小原勝喜	男	令和3年5月23日まで	第4
		千葉利幸	男	令和3年5月24日から	第4
	水沢金融団一水会	佐々木一恵	女		第3
	ジョブカフェ奥州	三浦千春	女		第2
	胆江日日新聞社	菊池藍	女		第1
かおり社会保険労務士事務所	菅原かおり	女		第2	
3号委員	学識経験者（岩手大学）	小野寺純治	男		第4分科会長
	学識経験者（岩手県立大学）	山本健	男		第3
	学識経験者（岩手県県南広域振興局）	小野綾子	女		第1分科会長
4号委員	公募委員	高橋智史	男		第2
	公募委員	和川理恵	女		第4

奥 政 第 4 4 9 号

令和 3 年 11 月 8 日

奥州市総合計画審議会

会長 遠藤 清逸 様

奥州市長 小 沢 昌 記

第 2 次奥州市総合計画後期基本計画(案)について（諮問）

奥州市総合計画の策定にあたり、奥州市総合計画審議会条例（平成18年奥州市条例第343号）第 1 条の規定に基づき、第 2 次奥州市総合計画後期基本計画（案）について、貴審議会の意見を求めます。

令和3年11月19日

奥州市長 小沢 昌記 様

奥州市総合計画審議会

会長 遠藤 清逸

第2次奥州市総合計画後期基本計画（案）について（答申）

令和3年11月8日付け奥政第449号により当審議会に諮問のありました第2次奥州市総合計画後期基本計画（案）について、慎重に審議した結果、奥州市における今後5年間の行政運営の指針として適切であるものと認めます。

なお、その実現に当たっては、次の事項に十分留意し、計画の円滑な推進に努められたい。

記

- 1 合併検証により浮き彫りとなった課題を意識するとともに、寄せられた市民、各種団体、関係機関等の意見を十分尊重されたい。
- 2 幅広い世代や団体などを意識した市政に係る情報の提供と意見の把握などにより、市民との信頼関係の構築に努め、「協働」のさらなる推進と、市民が自らまちづくりの主体として行動する機運の醸成を図られたい。
- 3 市の将来を担う世代の負担にならぬよう、公共施設の整理合理化、市有財産の有効活用をはじめとした行政経営改革の着実な推進に努められたい。
- 4 社会変革を促す新たな技術の急速な進展や生活のあり方を変える感染症、気候変動による大規模災害など、現代社会が予測困難な時代に突入していることに配慮した適切な対応策を講じられたい。

○奥州市総合計画策定委員会設置要綱

平成28年7月28日告示第155号

改正 令和2年2月26日告示第51号

改正 令和3年4月16日告示第121号

(設置)

第1条 奥州市総合計画（以下「計画」という。）の策定事務を円滑に推進するため、奥州市総合計画策定委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事項)

第2条 委員会の所掌事項は、次のとおりとする。

- (1) 基本構想の策定に関すること。
- (2) 基本構想に基づく基本計画及び実施計画の策定に関すること。
- (3) 前2号に掲げるもののほか、計画の策定に係る必要な事項に関すること。

2 委員会は、必要に応じて計画の策定に係る事務の取りまとめ状況等を市長に報告するものとする。

(組織)

第3条 委員会は、委員長、副委員長及び委員をもって組織する。

2 委員長は副市長を、副委員長は教育長をもって充てる。

3 委員は、次に掲げる職にある者をもって充てる。

- (1) 市長部局 総務企画部長、財務部長、協働まちづくり部長、市民環境部長、商工観光部長、農林部長、福祉部長、健康こども部長、都市整備部長、総合支所長及び会計管理者
- (2) 議会事務局 事務局長
- (3) 教育委員会事務局 教育部長
- (4) 上下水道部 上下水道部長
- (5) 医療局 経営管理部長

4 委員長は、会務を統括する。

5 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第4条 委員会の会議は、委員長が招集し、委員長が会議の議長となる。

(ワーキンググループ)

第5条 計画の策定及び検討に必要な調査、企画、資料の作成等を行わせるため、委員会にワーキンググループを置くことができる。

2 ワーキンググループの運営に関し必要な事項は、別に定める。

(事務局)

第6条 委員会の事務を処理するため、総務企画部政策企画課に事務局を置く。

2 事務局は、事務局長及び事務局職員をもって組織する。

3 事務局長は総務企画部政策企画課長を、事務局職員は総務企画部政策企画課の職員をもって充てる。

(補則)

第7条 この告示に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

附 則（令和2年2月26日告示第51号）

令和2年4月1日から施行する。

附 則（令和3年4月16日告示第121号）

令和3年4月16日から施行する。

令和3年度奥州市総合計画策定委員会委員名簿

役 職	職 名	氏 名
委 員 長	副市長	新 田 伸 幸
副 委 員 長	教育長	高 橋 勝
委 員	総務企画部長	千 葉 典 弘
委 員	財務部長	千 田 布美夫
委 員	協働まちづくり部長	浦 川 彰
委 員	市民環境部長	小野寺 和 夫
委 員	商工観光部長	佐 賀 俊 憲
委 員	農林部長	菊 地 厚
委 員	福祉部長	高 橋 利 徳
委 員	健康こども部長	佐 藤 浩 光
委 員	都市整備部長	渡 辺 恭 志
委 員	水沢総合支所長	千 葉 学
委 員	江刺総合支所長	高 野 聡
委 員	前沢総合支所長	小野寺 義 文
委 員	胆沢総合支所長	及 川 清
委 員	衣川総合支所長	高 橋 寿 幸
委 員	会計管理者	高 橋 善 行
委 員	議会事務局長	瀬 川 達 雄
委 員	教育部長	千 葉 昌
委 員	上下水道部長	中 田 宗 徳
委 員	医療局経営管理部長	朝日田 倫 明

事務局

事 務 局 長	政策企画課長	二階堂 純
事 務 局 員	政策企画課職員	

奥州市 市民アンケート 調査結果

奥州市総合計画/合併検証に関するアンケート

奥州市総務企画部政策企画課

I 調査概要

(1) 実施の目的

奥州市総合計画の後期基本計画策定に当たり、現状と目指すべき方向性などを明らかにするため、また、新型コロナウイルス感染症による市民生活への影響や市町村合併による効果や課題に関する市民の意識を把握するため、以下のとおり実施しました。

調査期間	令和3年5月1日（土）から同月31日（月）まで
調査方法	調査票を郵送により配布・回収（返信用封筒を同封）
調査対象	20歳以上の市民3,000人
抽出方法	5地域の人口バランスを考慮しつつ住民基本台帳から無作為抽出
回収状況	回答者数1,268人 回答率42.3%
主な設問	1 奥州市の暮らしやすさについて 2 これからの奥州市のまちづくりについて 3 新型コロナウイルス感染症の流行による影響等について 4 奥州市合併に対するあなたのお考えについて

※ 回収状況は、6月15日到着分までを有効回答とし、それ以降に到着した回答については、参考資料として取扱うこととしています。

(2) 調査結果利用上の留意点

ア 回答比率は、特に記載がない限り、当該アンケート回答者数に対するその選択肢を選択した回答者数の割合です。小数点第2位を四捨五入していますので、合計が100%にならないことがあります。また、2つ以上の回答を求めた質問の場合、その回答比率の合計は100%を超えることとなります。

イ 図表に示された「n」は回答者数を示しています。

ウ 時点検証のために表示している過去のアンケートの詳細は以下のとおりです。

H18	総合計画策定に係る市民アンケート調査 調査期間：平成18年4月27日から同年5月7日まで 対象者数：3,043人 回答者数：2,526人 回答率：83.0%
H22	まちづくり市民アンケート 調査期間：平成22年8月12日から同月31日まで 対象者数：3,030人 回答者数：1,301人 回答率：42.9%
H27	まちづくり市民アンケート調査 調査期間：平成27年8月7日から同月24日まで 対象者数：3,000人 回答者数：995人 回答率：33.2%
R1	奥州市市民アンケート 調査期間：令和元年11月20日から同年12月6日まで 対象者数：3,000人 回答者数：1,121人 回答率：37.4%

2 回答者の属性

(1) 性別

	R3		R1	
男性	577	45.50%	487	43.40%
女性	686	54.10%	628	56.00%
無回答	5	0.40%	6	0.50%

(2) 年齢

	R3		R1	
20代	64	5.00%	61	5.40%
30代	122	9.60%	117	10.40%
40代	160	12.60%	143	12.80%
50代	206	16.20%	190	16.90%
60代	282	22.20%	237	21.10%
70代	278	21.90%	227	20.20%
80代以上	152	12.00%	141	12.60%
無回答	4	0.30%	5	0.40%

(3) 居住地

	R3		R1	
水沢	623	49.10%	546	48.70%
江刺	296	23.30%	251	22.40%
前沢	141	11.10%	133	11.90%
胆沢	169	13.30%	140	12.50%
衣川	33	2.60%	44	3.90%
無回答	6	0.50%	7	0.60%

(4) 職業

	R3		R1	
農林業	124	9.80%	101	9.00%
自営業	105	8.30%	88	7.90%
会社員、公務員等	432	34.10%	379	33.80%
アルバイト、パートタイム	143	11.30%	140	12.50%
家事専業	216	17.00%	198	17.70%
学生	5	0.40%	12	1.10%
その他	184	14.50%	173	15.40%
無回答	59	4.70%	30	2.70%

(5) 居住年数（合併前の旧市町村を含む。）

	R3		R1	
1年未満	9	0.70%	11	1.00%
1年以上5年未満	47	3.70%	33	2.90%
5年以上10年未満	37	2.90%	33	2.90%
10年以上20年未満	98	7.70%	68	6.10%
20年以上	1,070	84.40%	968	86.40%
無回答	7	0.60%	8	0.70%

3 アンケート調査内容・結果・過去のアンケートとの比較

(1) 奥州市の暮らしやすさについて

1-① あなたは、奥州市の暮らしやすさについてどのようにお感じですか？次の中から1つ選んでください。

市民が感じる奥州市の暮らしやすさについては、「暮らしやすい」、「どちらかといえば暮らしやすい」と感じている割合は55.8%で、前回の55.5%から微増しました。

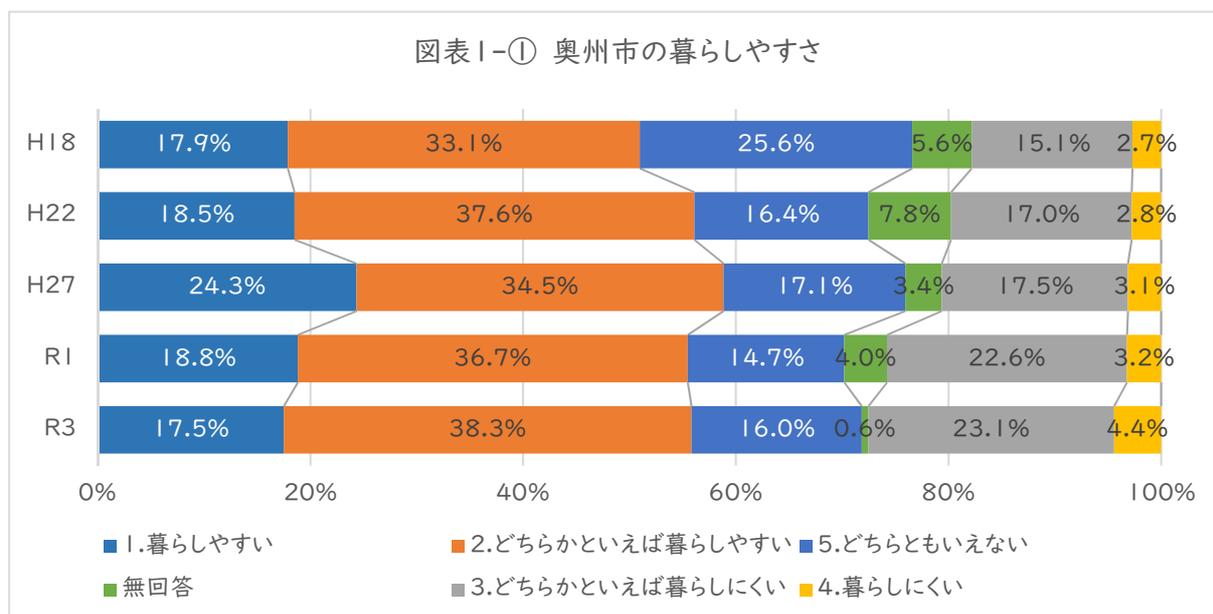
一方、「暮らしにくい」、「どちらかといえば暮らしにくい」と感じている割合は27.5%で、前回の25.8%から1.7ポイント増加しました。

【過去のアンケートとの比較（図表1-①）】

「暮らしやすい」、「どちらかといえば暮らしやすい」と感じている割合は、51.0%（H18）から58.8%（H27）まで増加傾向にありましたが、前回は55.5%と減少し、今回は55.9%（R3）と微増しました。

また、「暮らしにくい」、「どちらかといえば暮らしにくい」と感じている割合は、17.8%（H18）から27.5%（R3）まで増加傾向にあります。

	R3		R1	
1.暮らしやすい	222	17.50%	211	18.80%
2.どちらかといえば暮らしやすい	486	38.30%	411	36.70%
3.どちらかといえば暮らしにくい	293	23.10%	253	22.60%
4.暮らしにくい	56	4.40%	36	3.20%
5.どちらともいえない	203	16.00%	165	14.70%
無回答	8	0.60%	45	4.00%



1—② (1)暮らしやすい又は(2)どちらかといえば暮らしやすいと答えた方にお聞きします。それはどのような理由からですか？次から3つまで選んでください。

暮らしやすいと感じる理由は、前回同様に「自然環境が良いから」が54.1%（前回54.3%）、「買い物が便利だから」が48.0%（前回38.3%）、「人間関係、近隣関係が良いから」が45.6%（前回47.4%）などが上位に選ばれました。

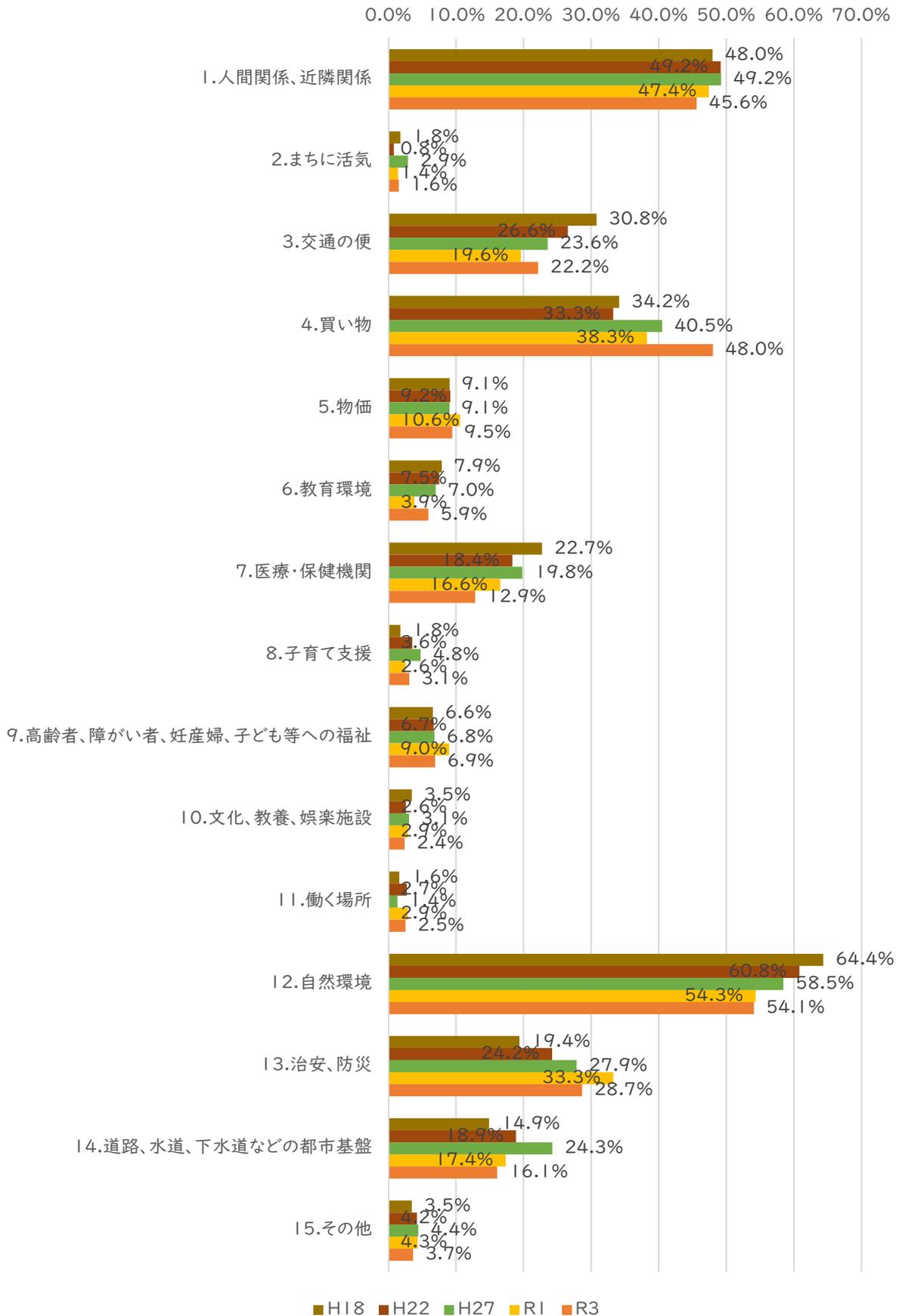
【過去のアンケートとの比較（図表1-②-1）】

「買い物が便利だから」が34.2%（H18）から48.0%（R3）と13.8ポイント増加、「治安、防災の面で安心できるから」が19.4%（H18）から28.7%（R3）と9.3ポイント増加するなど、暮らしやすいと感じる理由として増加傾向にあります。

一方、「交通の便が良いから」は30.8%（H18）から22.2%（R3）と8.6ポイント減少、「医療・保健機関が充実しているから」は22.7%（H18）から13.0%（R3）と9.7ポイント減少、「自然環境が良いから」は64.4%（H18）から54.0%（R3）と10.4ポイント減少するなど、暮らしやすいと感じる理由として減少傾向にあります。

	R3 (n=708)		R1 (n=622)	
	人数	割合	人数	割合
1.人間関係、近隣関係が良いから	323	45.60%	295	47.40%
2.まちに活気があるから	11	1.60%	9	1.40%
3.交通の便が良いから	157	22.20%	122	19.60%
4.買い物が便利だから	340	48.00%	238	38.30%
5.物価が安いから	67	9.50%	66	10.60%
6.教育環境が良いから	42	5.90%	24	3.90%
7.医療・保健機関が充実しているから	91	12.90%	103	16.60%
8.子育て支援が充実しているから	22	3.10%	16	2.60%
9.高齢者、障がい者、妊産婦、子ども等への福祉が充実しているから	49	6.90%	56	9.00%
10.文化、教養、娯楽施設が充実しているから	17	2.40%	18	2.90%
11.働く場所がたくさんあるから	18	2.50%	18	2.90%
12.自然環境が良いから	383	54.10%	338	54.30%
13.治安、防災の面で安心できるから	203	28.70%	207	33.30%
14.道路、水道、下水道などの都市基盤が十分整備されているから	114	16.10%	108	17.40%
15.その他 (生まれたところだからなど)	26	3.70%	27	4.30%

図表1-②-1 暮らしやすいと感じる理由



1—② (3)どちらかといえば暮らしにくい又は(4)暮らしにくいと答えた方にお聞きします。それはどのような理由からですか？次から3つまで選んでください。

暮らしにくいと感じる理由は、前回同様に「まちに活気がないから」が54.7%（前回50.2%）、「交通の便が悪いから」が49.0%（前回53.6%）、「医療・保健機関が不足しているから」が43.0%（前回43.6%）などが上位に選ばれています。

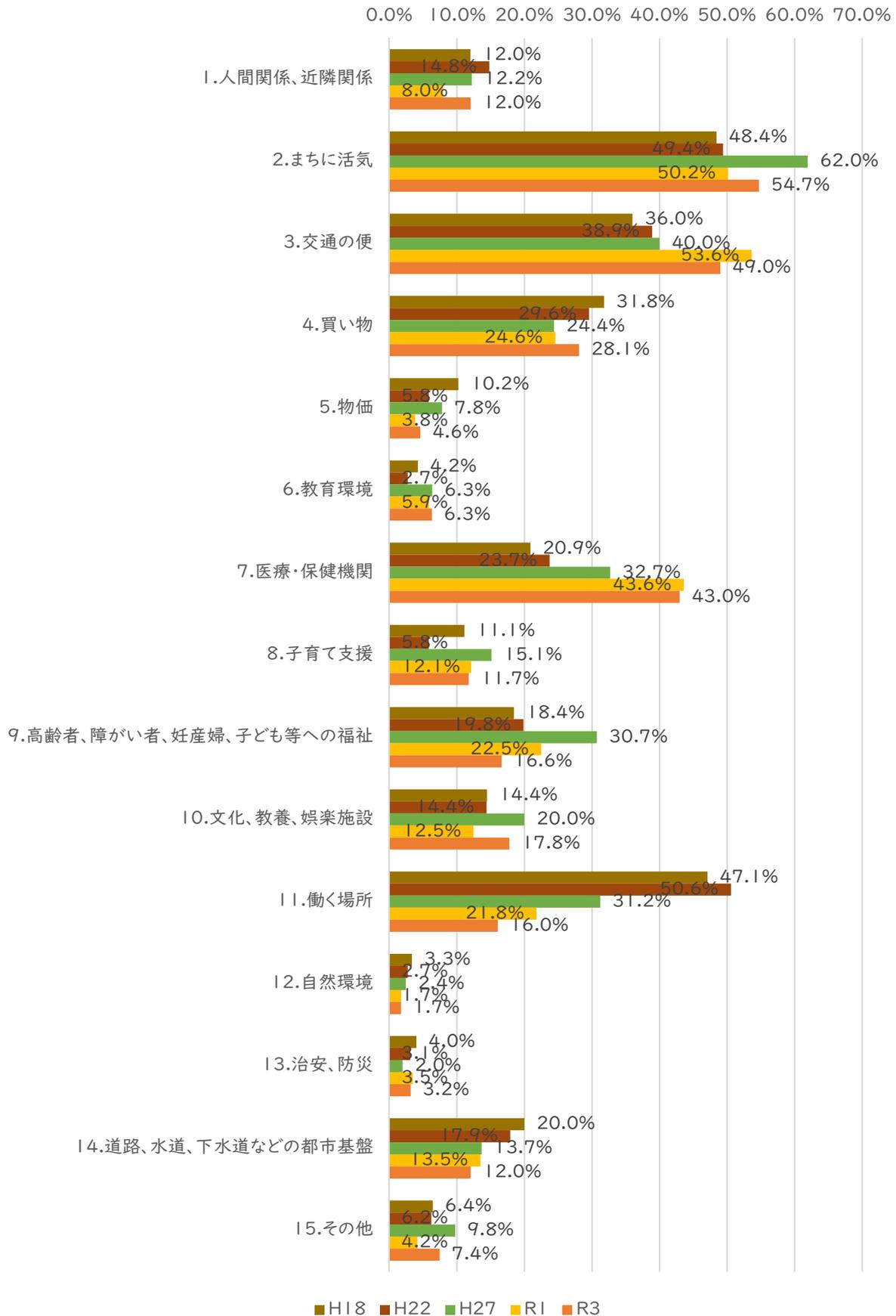
【過去のアンケートとの比較（図表1-②-2）】

「交通の便が悪いから」は36.0%（H18）から49.0%（R3）と13.0ポイント増加、「医療・保健機関が不足しているから」は20.9%（H18）から43.0%（R3）と22.1ポイントと大きく増加するなど、暮らしにくいと感じる理由として増加傾向にあります。

一方、「物価が高いから」は10.2%（H18）から4.6%（R3）と5.6ポイント減少、「道路、水道、下水道などの都市基盤が不十分だから」は20.0%（H18）から12.0%（R3）と8.0ポイント減少するなど減少傾向にあり、特に、「働く場所が少ないから」については47.1%（H18）から16.0%（R3）と31.1ポイント減少しており、暮らしにくいと感じる理由として挙げる人が大きく減少しています。

	R3 (n=349)		R1 (n=289)	
1.人間関係、近隣関係が悪いから	42	12.00%	23	8.00%
2.まちに活気がないから	191	54.70%	145	50.20%
3.交通の便が悪いから	171	49.00%	155	53.60%
4.買い物が不便だから	98	28.10%	71	24.60%
5.物価が高いから	16	4.60%	11	3.80%
6.教育環境が悪いから	22	6.30%	17	5.90%
7.医療・保健機関が不足しているから	150	43.00%	126	43.60%
8.子育て支援が不足しているから	41	11.70%	35	12.10%
9.高齢者、障がい者、妊産婦、子ども等への福祉が不足しているから	58	16.60%	65	22.50%
10.文化、教養、娯楽施設が不足しているから	62	17.80%	36	12.50%
11.働く場所が少ないから	56	16.00%	63	21.80%
12.自然環境が悪いから	6	1.70%	5	1.70%
13.治安、防災の面で不安だから	11	3.20%	10	3.50%
14.道路、水道、下水道などの都市基盤が不十分だから	42	12.00%	39	13.50%
15.その他 (税金が高い、Suicaが使えないなど)	26	7.40%	12	4.20%

図表1-②-2 暮らしにくいと感じる理由



1-③ 次に掲げた項目について、特に満足度が高い項目と、特に不満を感じる項目を、それぞれ3つずつ選び、その番号を記入してください。

特に満足度が高い項目については、「ゴミの減量、リサイクルの取組」が最も多く挙げられており、他の項目を大きく引き離し39.4%の回答者が、満足度が高いと回答しています。

一方、「商業街の魅力と賑わい」32.2%、「医療・保健サービスの充実」30.5%、「公共交通機関（鉄道・バス）の利便性」25.4%の3つの項目については、他の項目に比べて特に不満を感じている割合が多くなっています。

【過去のアンケートとの比較（図表1-③-1、1-③-2、1-③※1 1-③※2）】

過去のアンケートにおいては、1から28までの項目について、「非常に満足」、「どちらかといえば満足」、「どちらともいえない」※、「どちらかといえば不満」、「非常に不満」から該当する番号を選択する方式でしたが、今回は、特に満足度が高い項目と特に不満を感じる項目をそれぞれ3つ選択する方式に変更していることから、単純に比較を行うことができない状況となっています。

※ H22のみ「どちらともいえない」ではなく「わからない」

過去のアンケートの推移については、「非常に満足」、「どちらかといえば満足」と回答した割合を集計した図表1-③※1、「どちらかといえば不満」、「非常に不満」と回答した割合を集計した図表1-③※2のとおり。

※ H22のみ大きく突出している項目が多い要因のひとつとして、選択肢を「どちらともいえない」ではなく「わからない」としたことが影響し、他のアンケートでは「どちらともいえない」を選択する層が、それぞれに振り分けられたのではないかと推察されます。

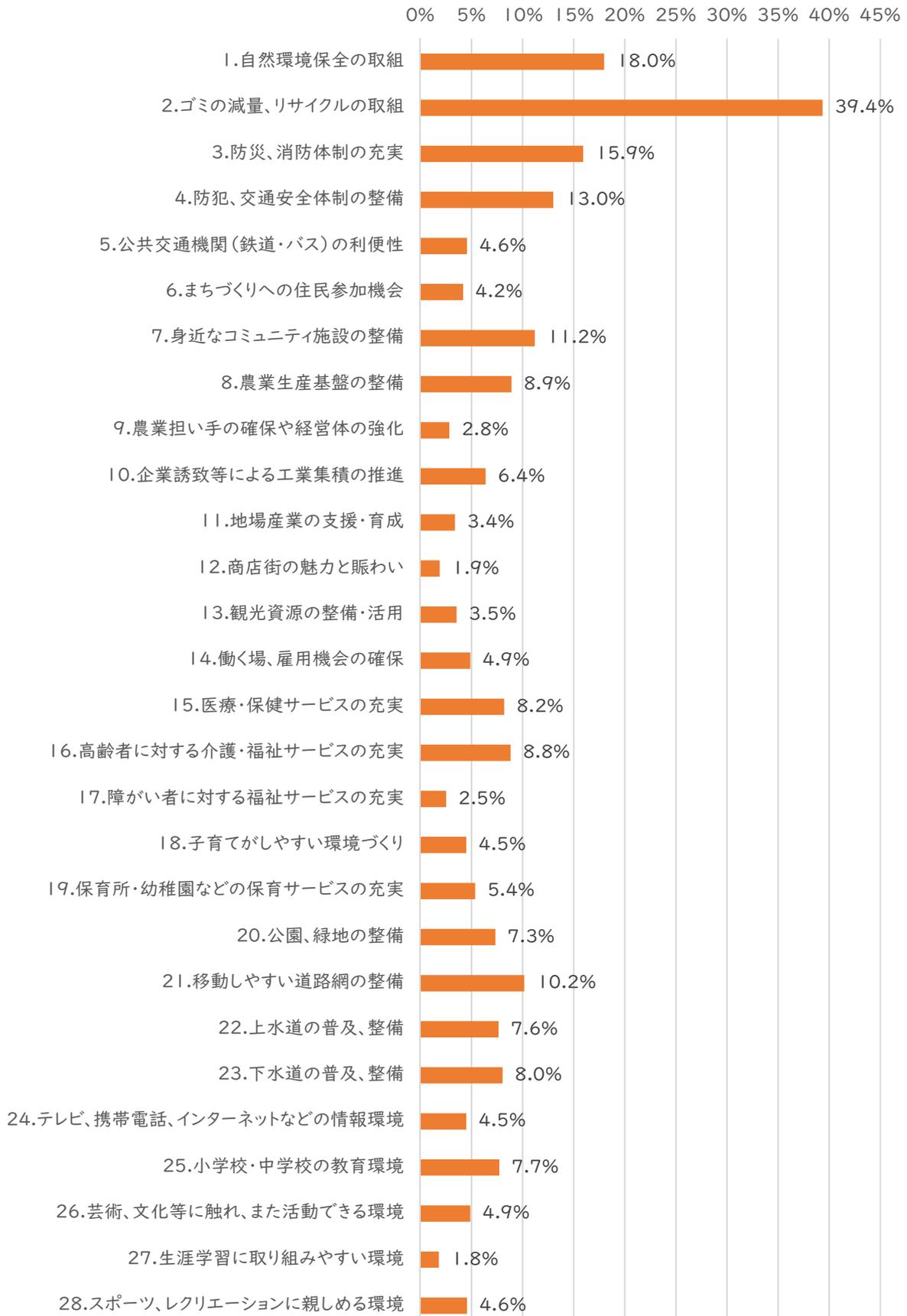
1-③ 特に満足度が高い項目

	R3	
1.自然環境保全の取組	228	18.00%
2.ゴミの減量、リサイクルの取組	499	39.40%
3.防災、消防体制の充実	202	15.90%
4.防犯、交通安全体制の整備	165	13.00%
5.公共交通機関（鉄道・バス）の利便性	58	4.60%
6.まちづくりへの住民参加機会	53	4.20%
7.身近なコミュニティ施設の整備	142	11.20%
8.農業生産基盤の整備	113	8.90%
9.農業担い手の確保や経営体の強化	36	2.80%
10.企業誘致等による工業集積の推進	81	6.40%
11.地場産業の支援・育成	43	3.40%
12.商業街の魅力と賑わい	24	1.90%
13.観光資源の整備・活用	45	3.50%
14.働く場、雇用機会の確保	62	4.90%
15.医療・保健サービスの充実	104	8.20%
16.高齢者に対する介護・福祉サービスの充実	112	8.80%
17.障がい者に対する福祉サービスの充実	32	2.50%
18.子育てがしやすい環境づくり	57	4.50%
19.保育所・幼稚園などの保育サービスの充実	68	5.40%
20.公園、緑地の整備	93	7.30%
21.移動しやすい道路網の整備	129	10.20%
22.上水道の普及、整備	97	7.60%
23.下水道の普及、整備	102	8.00%
24.テレビ、携帯電話、インターネットなどの情報環境	57	4.50%
25.小学校・中学校の教育環境	98	7.70%
26.芸術、文化等に触れ、また活動できる環境	62	4.90%
27.生涯学習に取り組みやすい環境	23	1.80%
28.スポーツ、レクリエーションに親しめる環境	58	4.60%

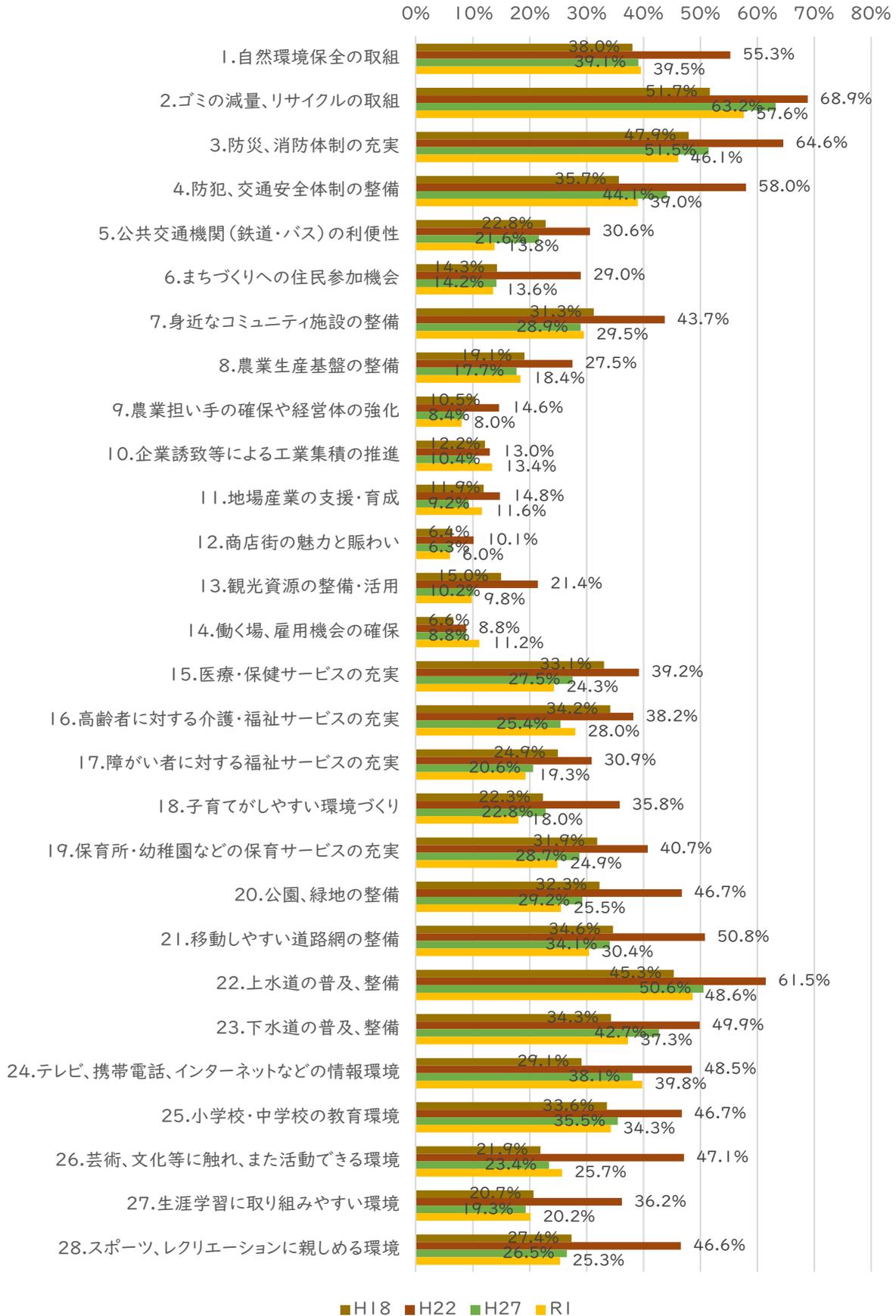
1-③ 特に不満を感じる項目

	R3	
1.自然環境保全の取組	15	1.20%
2.ゴミの減量、リサイクルの取組	28	2.20%
3.防災、消防体制の充実	15	1.20%
4.防犯、交通安全体制の整備	19	1.50%
5.公共交通機関（鉄道・バス）の利便性	322	25.40%
6.まちづくりへの住民参加機会	34	2.70%
7.身近なコミュニティ施設の整備	37	2.90%
8.農業生産基盤の整備	37	2.90%
9.農業担い手の確保や経営体の強化	109	8.60%
10.企業誘致等による工業集積の推進	124	9.80%
11.地場産業の支援・育成	47	3.70%
12.商業街の魅力と賑わい	408	32.20%
13.観光資源の整備・活用	94	7.40%
14.働く場、雇用機会の確保	177	14.00%
15.医療・保健サービスの充実	387	30.50%
16.高齢者に対する介護・福祉サービスの充実	191	15.10%
17.障がい者に対する福祉サービスの充実	50	3.90%
18.子育てがしやすい環境づくり	173	13.60%
19.保育所・幼稚園などの保育サービスの充実	83	6.50%
20.公園、緑地の整備	118	9.30%
21.移動しやすい道路網の整備	162	12.80%
22.上水道の普及、整備	25	2.00%
23.下水道の普及、整備	112	8.80%
24.テレビ、携帯電話、インターネットなどの情報環境	81	6.40%
25.小学校・中学校の教育環境	72	5.70%
26.芸術、文化等に触れ、また活動できる環境	73	5.80%
27.生涯学習に取り組みやすい環境	75	5.90%
28.スポーツ、レクリエーションに親しめる環境	111	8.80%

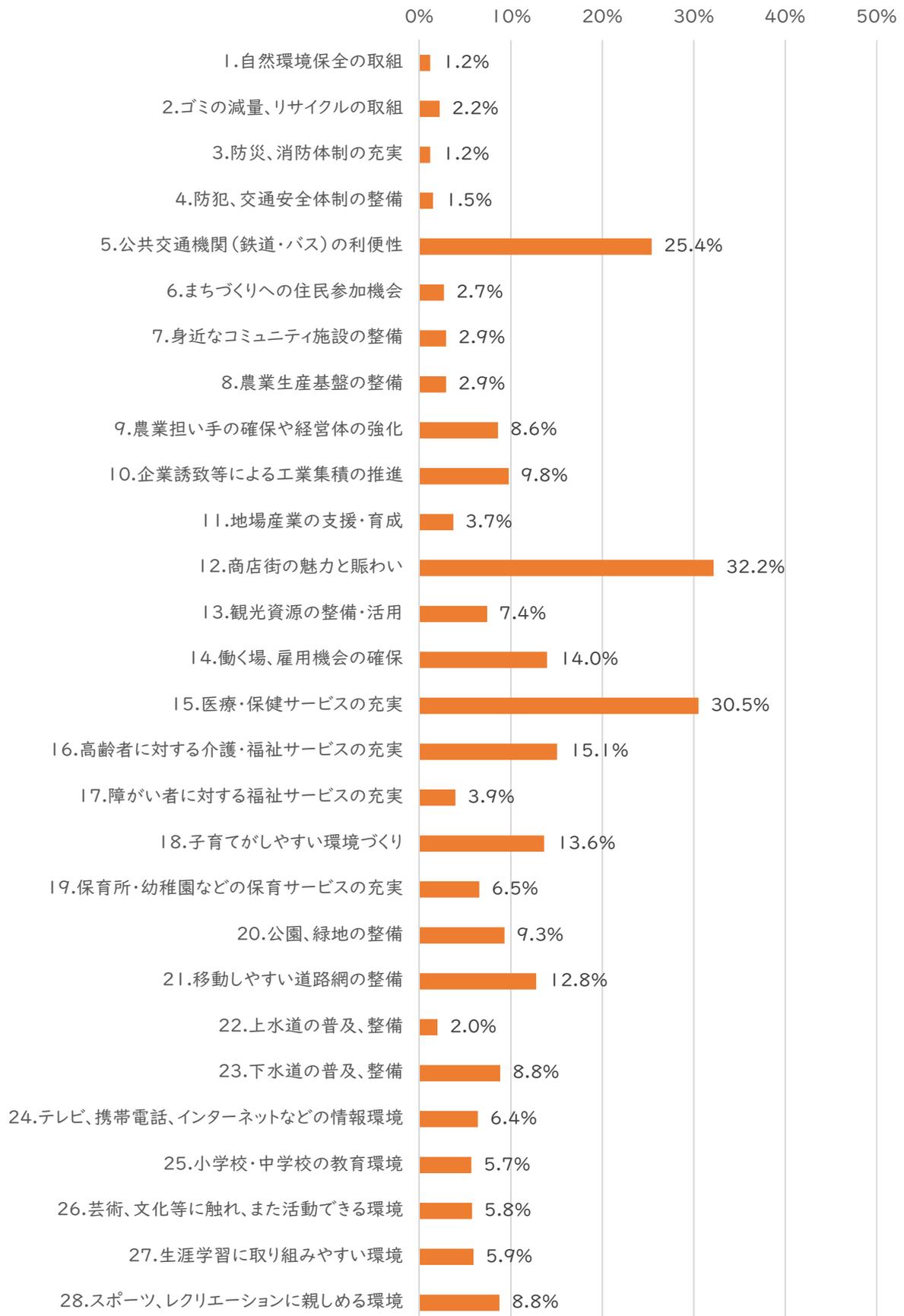
図表1-③ 特に満足度が高い項目



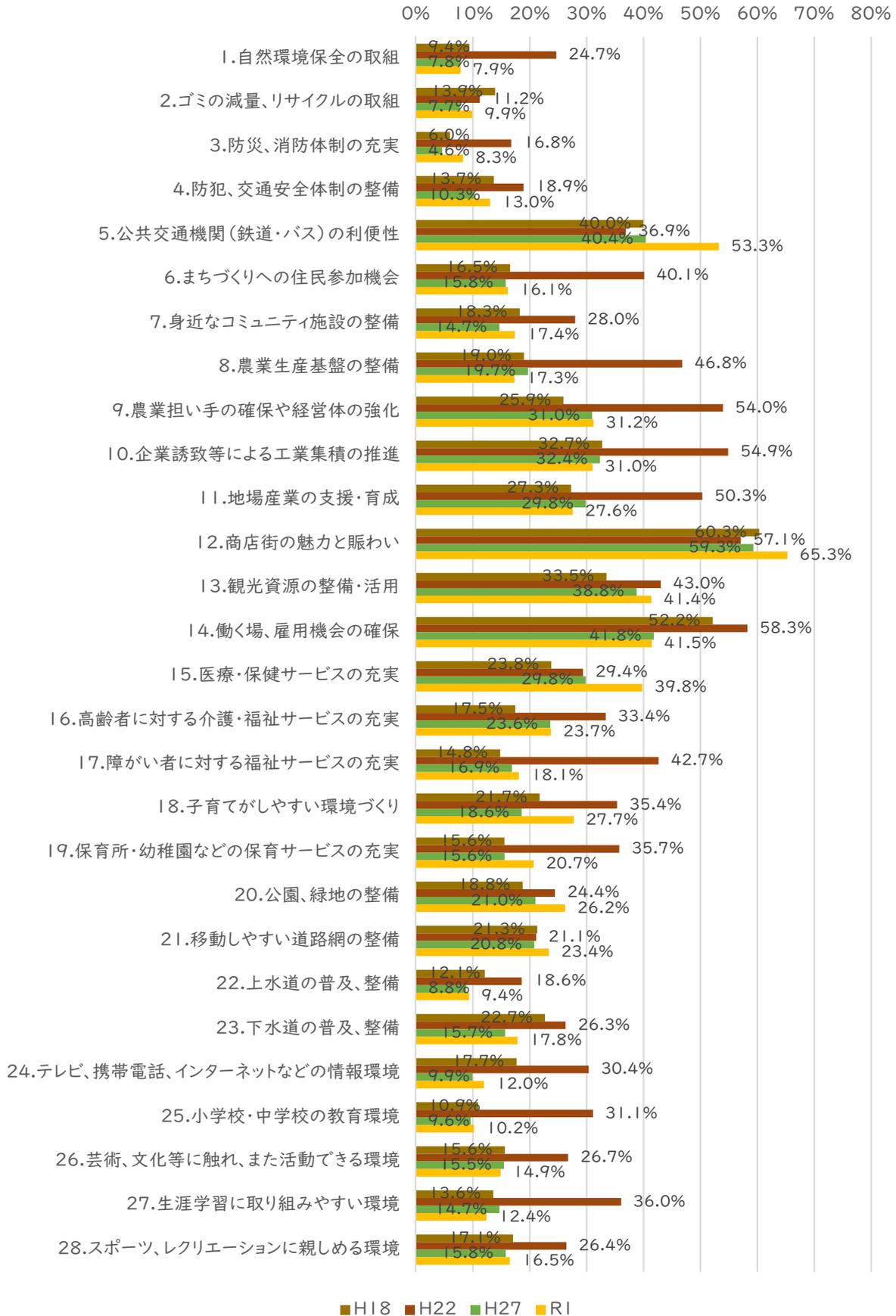
図表1-③※1 暮らしの満足度



図表1-③-2 特に不満に感じる項目



図表1-③※2 暮らしの不満度



1-④ あなたは、奥州市に住み続けたいですか？

奥州市への定住意向については、「はい」（住み続けたい）が「いいえ」（移転したい）が大きく上回り、回答者のうち65.4%（前回75.4%）が奥州市に住み続けたいと回答しています。

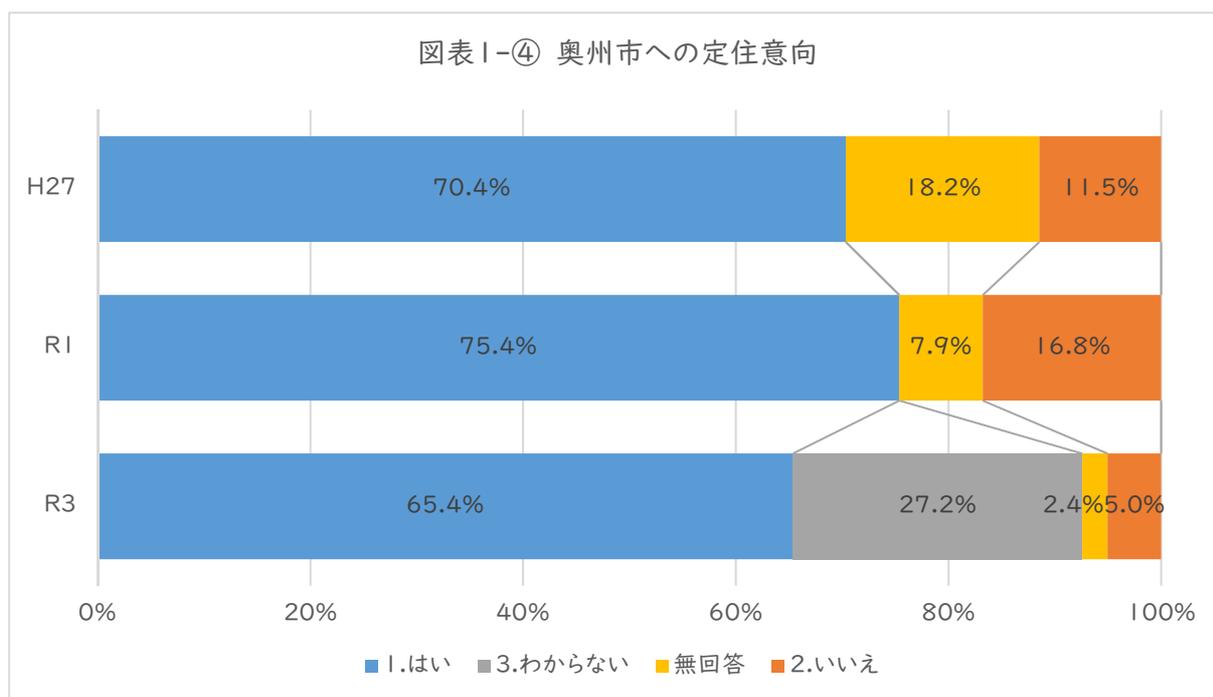
なお、「はい」（住み続けたい）と回答した割合が前回より10.0ポイント減少した要因のひとつとして、選択肢に「わからない」を加えたことにより、一定数の回答が「わからない」を選択したことが影響しているのではないかと推察されます。

【過去のアンケートとの比較（図表1-④）】

奥州市への定住意向については、H27のアンケートから創設された項目です。どの年も「いいえ」（移転したい）を大きく上回る約6～7割の回答者が奥州市に住み続けたいと回答しています。

今回、「はい」（住み続けたい）と回答した割合65.4%が前回（75.4%）より10.0ポイント減少していますが、「いいえ」（移転したい）と回答した割合も前回の16.8%から5.0%と11.8ポイント減少しています。

	R3		R1	
1.はい	829	65.40%	845	75.40%
2.いいえ	64	5.00%	188	16.80%
3.わからない	345	27.20%	-	-
無回答	30	2.40%	88	7.90%



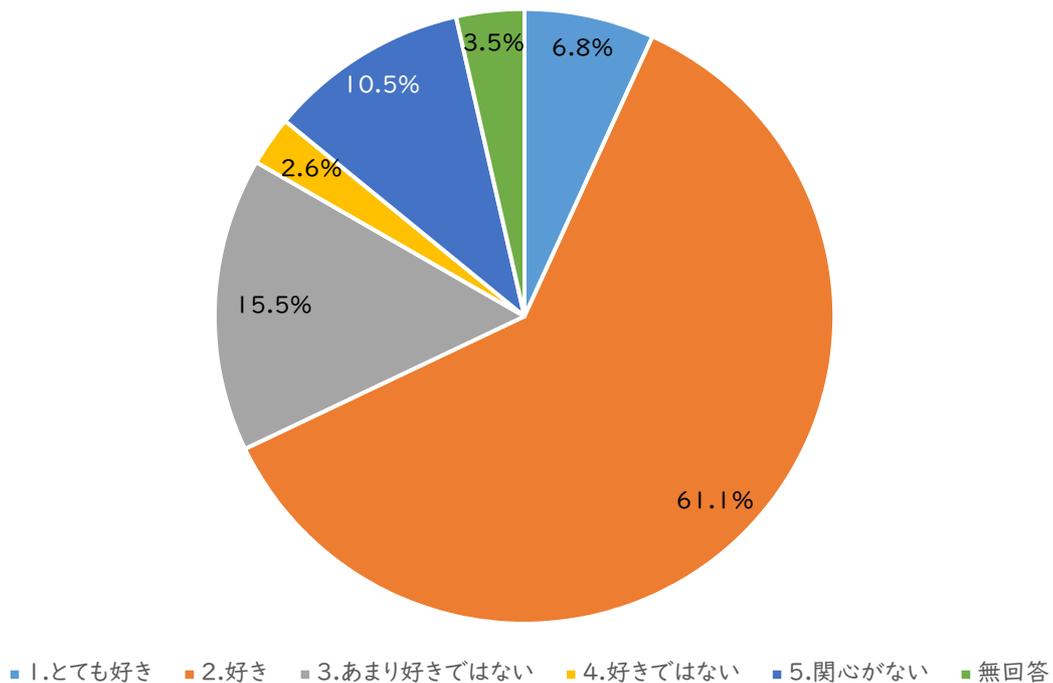
1-⑤ あなたは、奥州市のことが好きですか？

【R3新規項目】

奥州市のことが好きかどうかについては、「とても好き」、「好き」と感じている割合（67.9%）が、「あまり好きではない」、「好きではない」、「関心がない」と感じている割合（28.6%）を大きく上回りました。

	R3	
1.とても好き	86	6.80%
2.好き	775	61.10%
3.あまり好きではない	196	15.50%
4.好きではない	33	2.60%
5.関心がない	133	10.50%
無回答	45	3.50%

図表1-⑤ 奥州市のことが好きですか



1—⑥ あなたが考える奥州市の魅力は何ですか？次の中から3つ以内で選んでください。

奥州市の魅力については、前回同様に「自然環境に恵まれている」63.6%（前回72.0%）、「買い物など日常生活の便がいい」32.3%（前回31.0%）などが上位に選ばれました。

また、今回新たに追加された選択肢の中では、「市民の心が温かい」が最も回答された割合が高く24.4%の回答がありました。

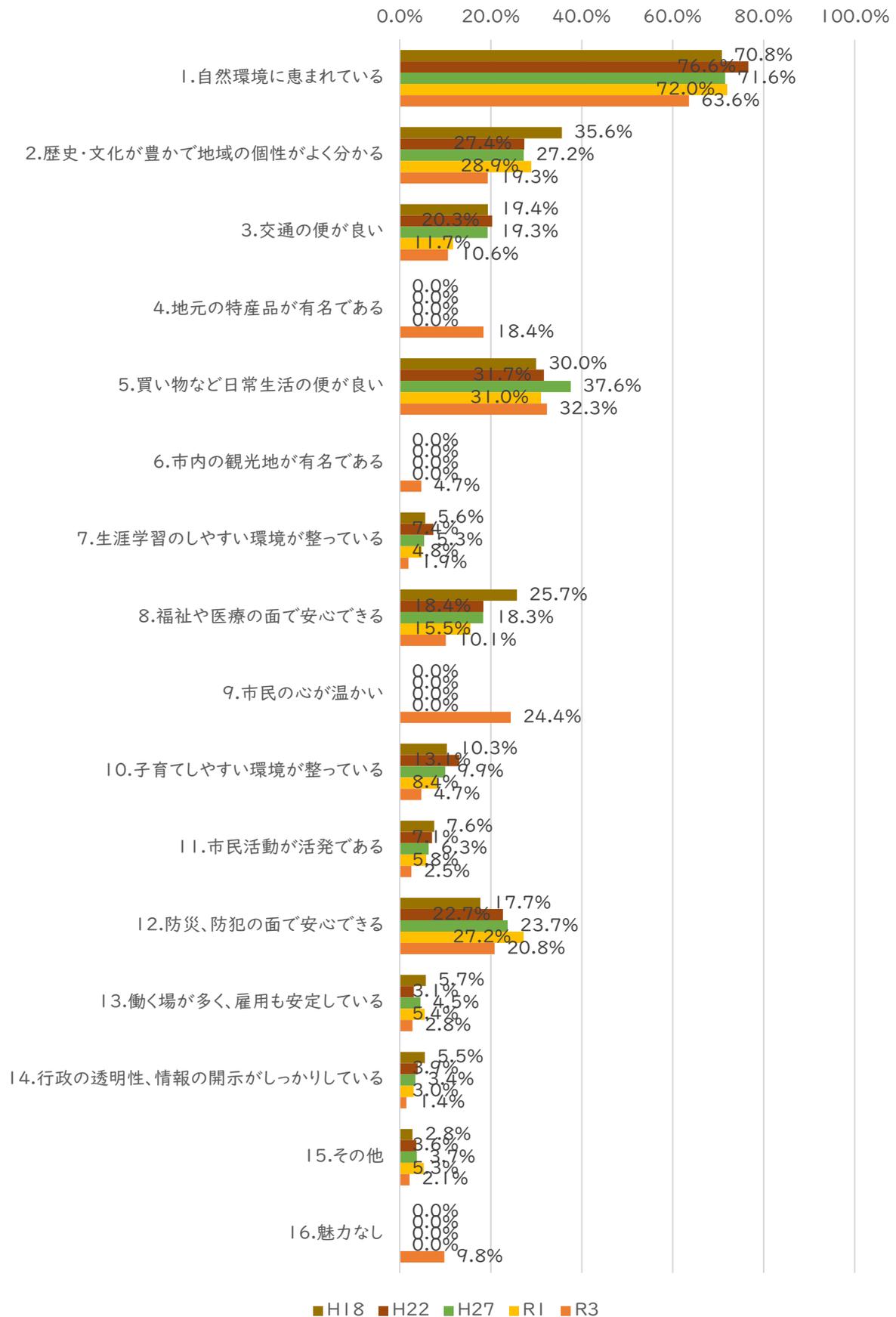
【過去のアンケートとの比較（図表1-⑥）】

今回のアンケートにおいては、新たに「地元の特産品が有名である」、「市内の観光地が有名である」、「市民の心が温かい」、「魅力なし」の4つの選択肢を新たに追加していることにより、既存の選択肢については、「買い物など日常生活の便がいい」を除くすべての回答割合が減少しています。

なお、R1までの回答状況で比較すると、「防災、防犯の面で安心できる」を奥州市の魅力として回答した割合は増加傾向にあり、「交通の便が良い」、「福祉や医療の面で安心できる」、「子育てしやすい環境が整っている」などについては、減少傾向にあります。

	R3		R1	
	件数	割合	件数	割合
1.自然環境に恵まれている	806	63.60%	807	72.00%
2.歴史・文化が豊かで地域の個性がよく分かる	245	19.30%	324	28.90%
3.交通の便が良い	134	10.60%	131	11.70%
4.地元の特産品が有名である	233	18.40%	-	-
5.買い物など日常生活の便が良い	410	32.30%	348	31.00%
6.市内の観光地が有名である	60	4.70%	-	-
7.生涯学習のしやすい環境が整っている	24	1.90%	54	4.80%
8.福祉や医療の面で安心できる	128	10.10%	174	15.50%
9.市民の心が温かい	309	24.40%	-	-
10.子育てしやすい環境が整っている	60	4.70%	94	8.40%
11.市民活動が活発である	32	2.50%	65	5.80%
12.防災、防犯の面で安心できる	264	20.80%	305	27.20%
13.働く場が多く、雇用も安定している	35	2.80%	61	5.40%
14.行政の透明性、情報の開示がしっかりしている	18	1.40%	34	3.00%
15.その他 (大谷翔平選手、国立天文台など)	27	2.10%	59	5.30%
16.魅力なし	124	9.80%	-	-

図表1-⑥ 奥州市の魅力



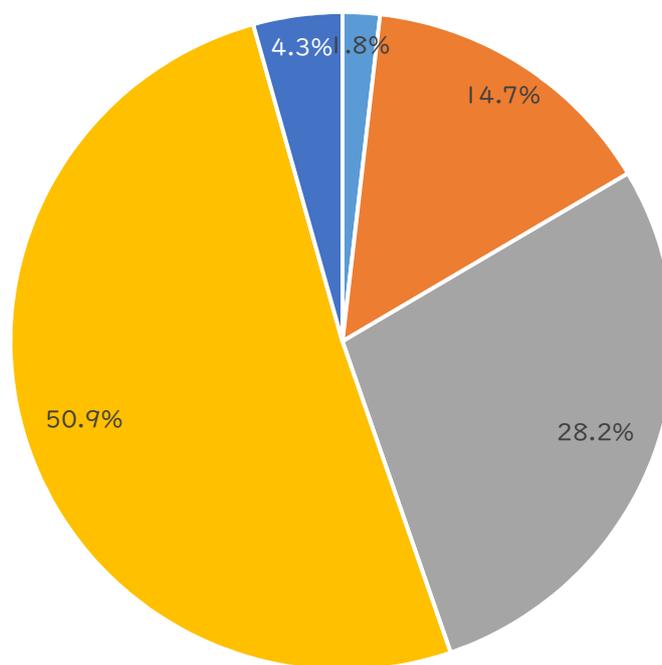
1-⑦ あなたは、奥州市の魅力や情報を発信していますか？（知人への共有、口コミ、SNSなど）

【R3新規項目】

奥州市の魅力や情報を発信しているかどうかについては、「あまり発信していない」、「発信していない」と回答した割合（79.1%）が、「積極的に発信している」、「たまに発信している」と回答した割合（16.5%）を大きく上回りました。

	R3	
1.積極的に発信している	23	1.80%
2.たまに発信している	186	14.70%
3.あまり発信していない	358	28.20%
4.発信していない	646	50.90%
無回答	55	4.30%

図表1-⑦ 奥州市の魅力の情報発信



■ 1.積極的に発信している ■ 2.たまに発信している ■ 3.あまり発信していない ■ 4.発信していない ■ 無回答

(2) これからの奥州市のまちづくりについて

2—① 豊かな自然環境との共生に関して、今後特にどのようなことに力を入れて取り組むべきとお考えですか？次の中から3つ選んでください。

豊かな自然環境との共生については、前回と同様に「河川、森林等自然環境の適正管理と保全」50.1%（前回45.9%）、「ゴミの減量化やリサイクルの促進」46.1%（前回44.1%）へ力を入れて取り組むべきと考える割合が高いです。

また、「太陽光発電等の新エネルギーの普及促進」に力を入れて取り組むべきと考える割合は、前回の19.2%から35.6%と16.4ポイント増加しました。

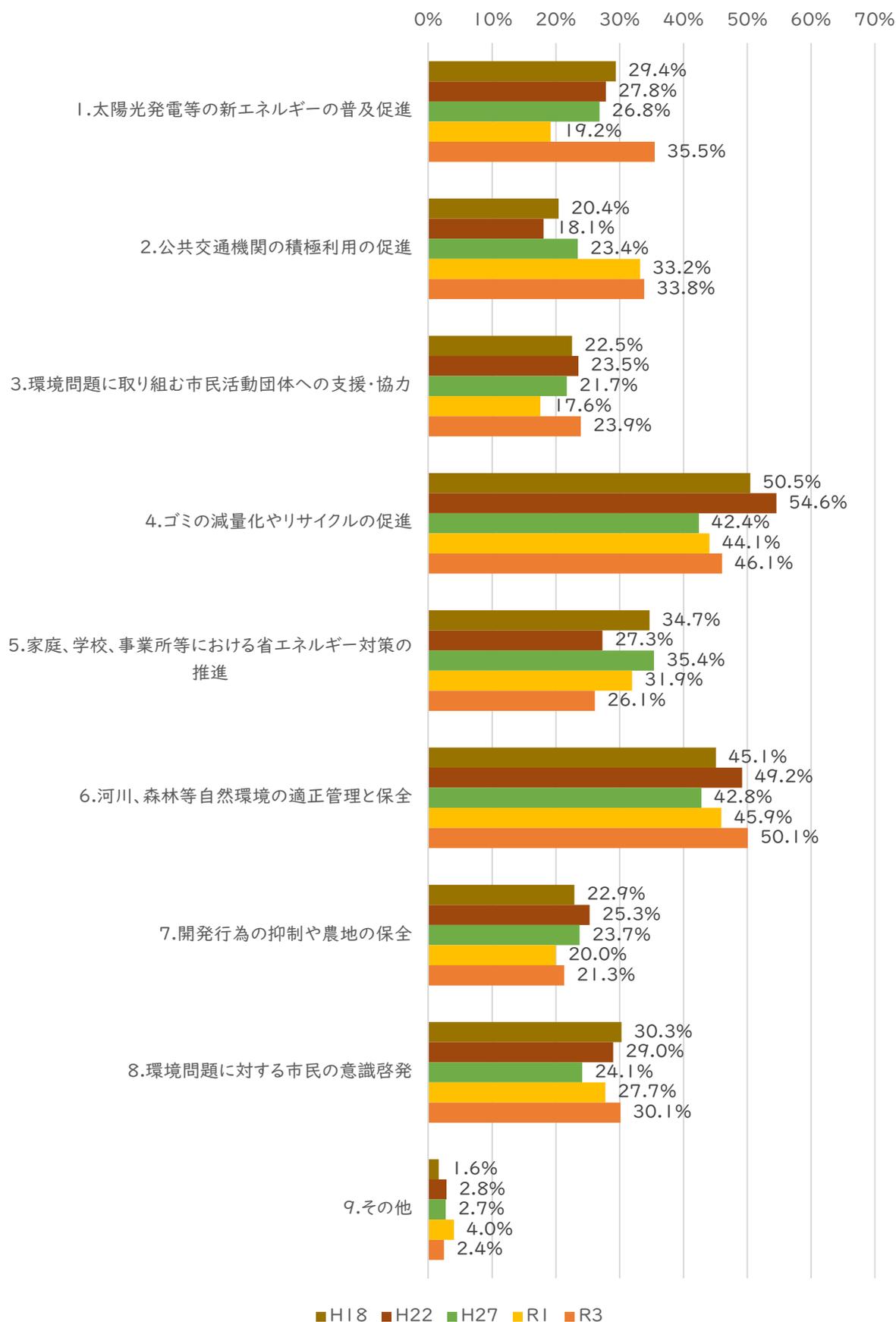
【過去のアンケートとの比較（図表2-①）】

「公共交通機関の積極利用の促進」に力を入れて取り組むべきと考える割合は、18.1%（H22）から33.8%（R3）まで増加傾向にあります。

また、「太陽光発電等の新エネルギーの普及促進」に力を入れて取り組むべきと考える割合は、29.4%（H18）からの19.2%（R1）まで減少傾向にありましたが、今回は35.5%と大きく増加しています

	R3		R1	
1.太陽光発電等の新エネルギーの普及促進	450	35.50%	215	19.20%
2.公共交通機関の積極利用の促進	429	33.80%	372	33.20%
3.環境問題に取り組む市民活動団体への支援・協力	303	23.90%	197	17.60%
4.ゴミの減量化やリサイクルの促進	584	46.10%	494	44.10%
5.家庭、学校、事業所等における省エネルギー対策の推進	331	26.10%	358	31.90%
6.河川、森林等自然環境の適正管理と保全	635	50.10%	515	45.90%
7.開発行為の抑制や農地の保全	270	21.30%	224	20.00%
8.環境問題に対する市民の意識啓発	382	30.10%	311	27.70%
9.その他 (ポイ捨て対策、野生動物の保護など)	31	2.40%	45	4.00%

図表2-① 豊かな自然環境との共生



2—② 産業振興に関する取組について、今後特にどのようなことに力を入れて取り組むべきとお考えですか？次の中から3つ選んでください。

産業振興に関する取組については、「農産物、物産などの地場製品の販売力の強化」50.6%（前回45.5%）、「商店街の活性化」50.4%（前回50.9%）、「女性、高齢者、障がい者が働きやすい環境づくり」43.7%（前回43.4%）に力を入れて取り組むべきと考える割合が高くなりました。

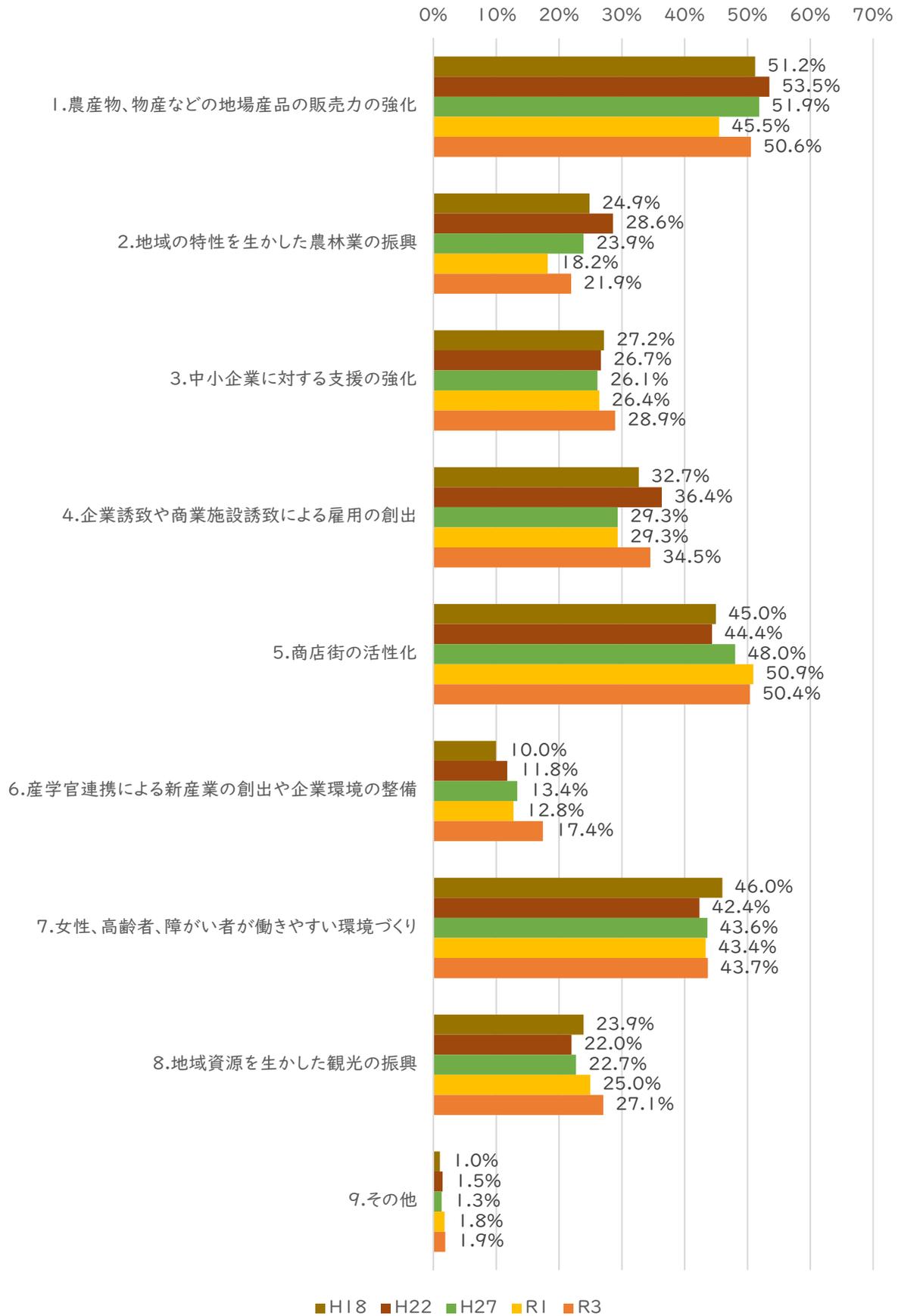
【過去のアンケートとの比較（図表2-②）】

過去のアンケートと比較すると、「商店街の活性化」、「産学官連携による新産業の創出や企業環境の整備」、「地域資源を生かした観光の振興」に力を入れて取り組むべきと考える割合は、増加傾向にあります。

一方、「農産物、物産などの地場製品の販売力の強化」に力を入れて取り組むべきと考える割合は、53.5%（H22）から45.5%（R1）まで減少傾向にありましたが、今回は50.6%と5.1ポイント増加しました。

	R3		R1	
	件数	割合	件数	割合
1.農産物、物産などの地場製品の販売力の強化	641	50.60%	510	45.50%
2.地域の特性を生かした農林業の振興	278	21.90%	204	18.20%
3.中小企業に対する支援の強化	367	28.90%	296	26.40%
4.企業誘致や商業施設誘致による雇用の創出	438	34.50%	329	29.30%
5.商店街の活性化	639	50.40%	571	50.90%
6.産学官連携による新産業の創出や企業環境の整備	221	17.40%	143	12.80%
7.女性、高齢者、障がい者が働きやすい環境づくり	554	43.70%	486	43.40%
8.地域資源を生かした観光の振興	343	27.10%	280	25.00%
9.その他 (地産地消、SNSによる情報発信など)	24	1.90%	20	1.80%

図表2-② 産業振興に関する取組



2—③ 健康・福祉に関する取組について、今後特にどのようなことに力を入れて取り組むべきとお考えですか？次の中から3つ選んでください。

健康・福祉に関する取組については、前回同様に「医療・福祉の高度化や専門的サービスの拡充」60.4%（前回51.3%）、「保育の充実など子育てのしやすい環境の整備」43.6%（前回43.5%）、「予防に重点を置いた健康づくりの促進」41.8%（前回38.4%）に力を入れて取り組むべきと考える割合が高くなりました。

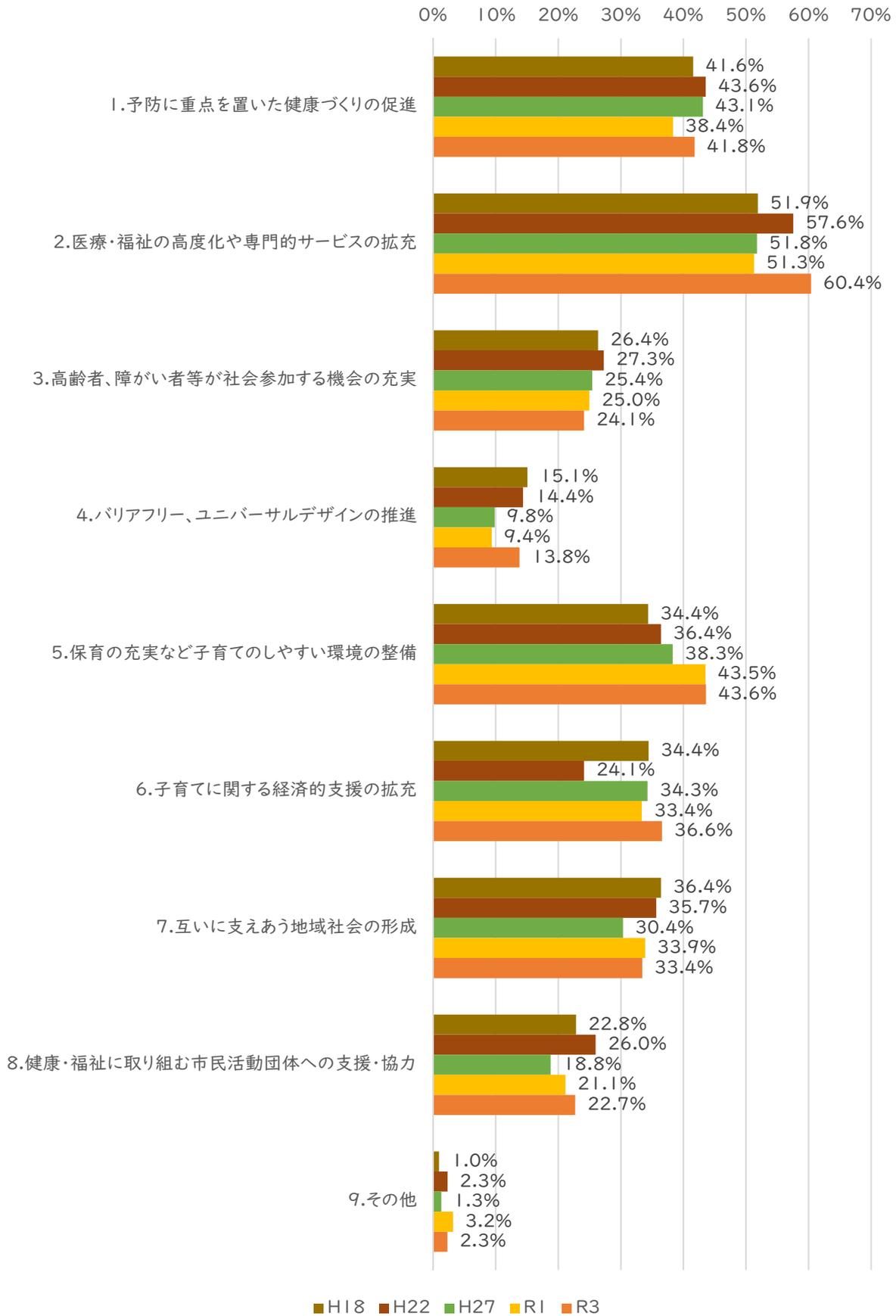
【過去のアンケートとの比較（図表2-③）】

「保育の充実など子育てのしやすい環境の整備」に力を入れて取り組むべきと考える割合は、34.4%（H18）から43.6%（R3）まで増加傾向にあります。

また、「医療・福祉の高度化や専門的サービスの拡充」に力を入れて取り組むべきと考える割合は、51.9%（H18）から51.3%（R1）までほぼ横ばい傾向（H22のみ57.6%）にありましたが、今回は60.4%と9.3ポイント増加しました。

	R3		R1	
	件数	割合	件数	割合
1.予防に重点を置いた健康づくりの促進	530	41.80%	430	38.40%
2.医療・福祉の高度化や専門的サービスの拡充	766	60.40%	575	51.30%
3.高齢者、障がい者等が社会参加する機会の充実	306	24.10%	280	25.00%
4.バリアフリー、ユニバーサルデザインの推進	175	13.80%	105	9.40%
5.保育の充実など子育てのしやすい環境の整備	553	43.60%	488	43.50%
6.子育てに関する経済的支援の拡充	464	36.60%	374	33.40%
7.互いに支えあう地域社会の形成	424	33.40%	380	33.90%
8.健康・福祉に取り組む市民活動団体への支援・協力	288	22.70%	237	21.10%
9.その他 (産婦人科・小児科の確保など)	29	2.30%	36	3.20%

図表2-③ 健康・福祉に関する取組



2—④ 都市基盤の整備に関する取組について、今後特にどのようなことに力を入れて取り組むべきとお考えですか？次の中から3つ選んでください。

都市基盤の整備に関する取組については、前回同様に「地域の実情に応じた土地利用の促進」53.9%（前回49.0%）、「身近な生活道路の整備」53.2%（前回45.8%）、「市内外への公共交通機関網の整備」36.6%（前回43.4%）に力を入れて取り組むべきと考える割合が高くなりました。

【過去のアンケートとの比較（図表2-④）】

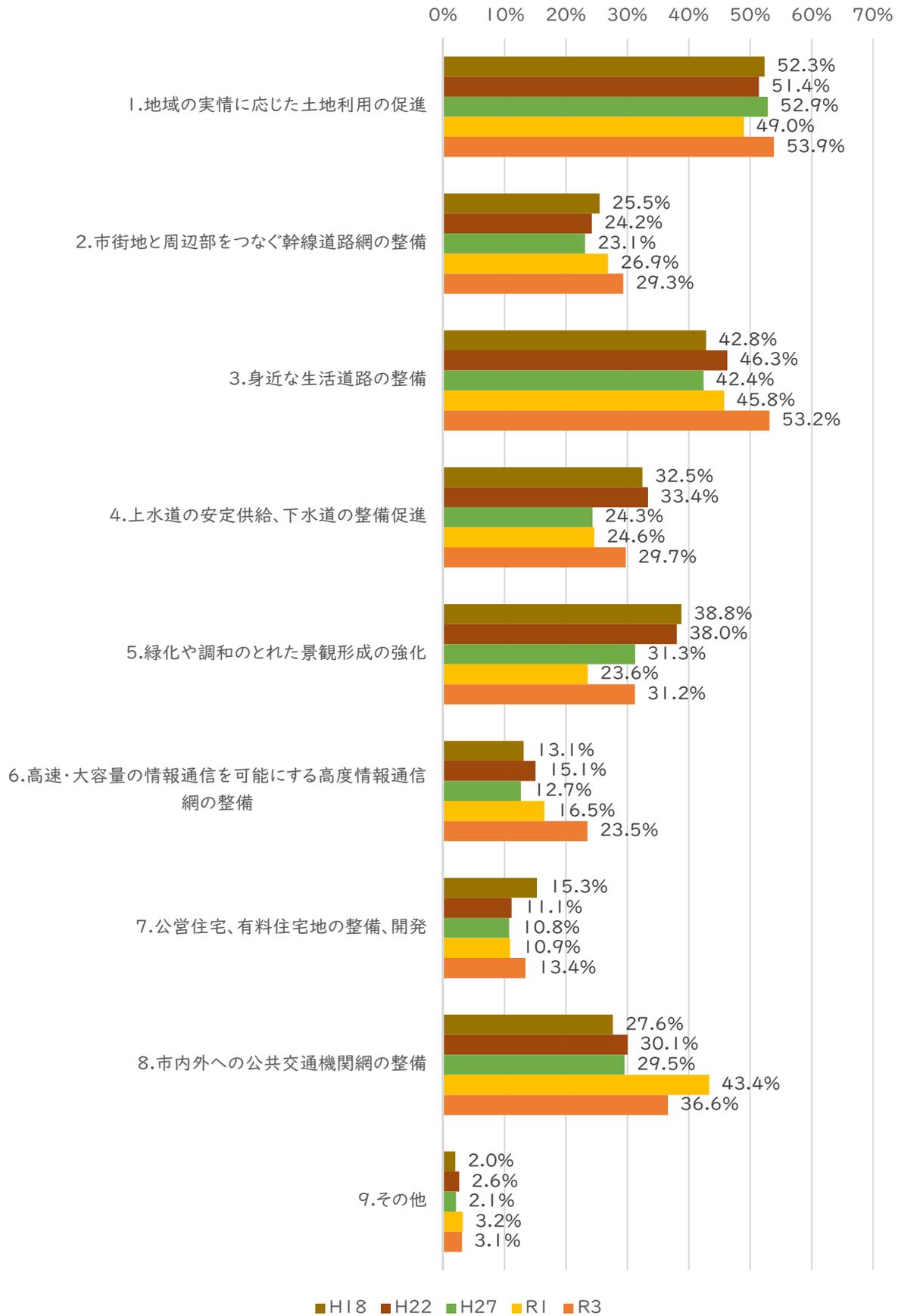
「身近な生活道路の整備」、「高速・大容量の情報通信を可能にする高度情報通信網の整備」に力を入れて取り組むべきと考える割合は、増加傾向にあります。

また、「市内外への公共交通機関網の整備」に力を入れて取り組むべきと考える割合は、29.5%（H27）から43.4%（R1）へ増加しましたが、今回は36.6%と6.8ポイント減少しました。

一方、「緑化や調和のとれた景観形成の強化」に力を入れて取り組むべきと考える割合は、38.8%（H18）から23.6%（R1）まで減少傾向にありましたが、今回は31.2%と7.6ポイント増加しました。

	R3		R1	
	件数	割合	件数	割合
1.地域の実情に応じた土地利用の促進	683	53.90%	549	49.00%
2.市街地と周辺部をつなぐ幹線道路網の整備	372	29.30%	301	26.90%
3.身近な生活道路の整備	674	53.20%	513	45.80%
4.上水道の安定供給、下水道の整備促進	377	29.70%	276	24.60%
5.緑化や調和のとれた景観形成の強化	396	31.20%	264	23.60%
6.高速・大容量の情報通信を可能にする高度情報通信網の整備	298	23.50%	185	16.50%
7.公営住宅、有料住宅地の整備、開発	170	13.40%	122	10.90%
8.市内外への公共交通機関網の整備	464	36.60%	486	43.40%
9.その他 (空き家対策、公園整備など)	39	3.10%	36	3.20%

図表2-④ 都市基盤の整備に関する取組



2—⑤ 教育、文化、スポーツに関する取組について、今後どのようなことに力を入れて取り組むべきとお考えですか？次の中から3つ選んでください。

教育、文化、スポーツに関する取組について、「豊かな感性、確かな学力を育む学校教育の充実」に力を入れて取り組むべきと考える割合が57.2%（前回51.5%）と最も高く、次いで「地域の伝統・文化の継承と芸術に触れる機会の充実」に力を入れて取り組むべきと考える割合が43.6%（前回40.2%）と高くなっています。

【過去のアンケートとの比較（図表2-⑤）】

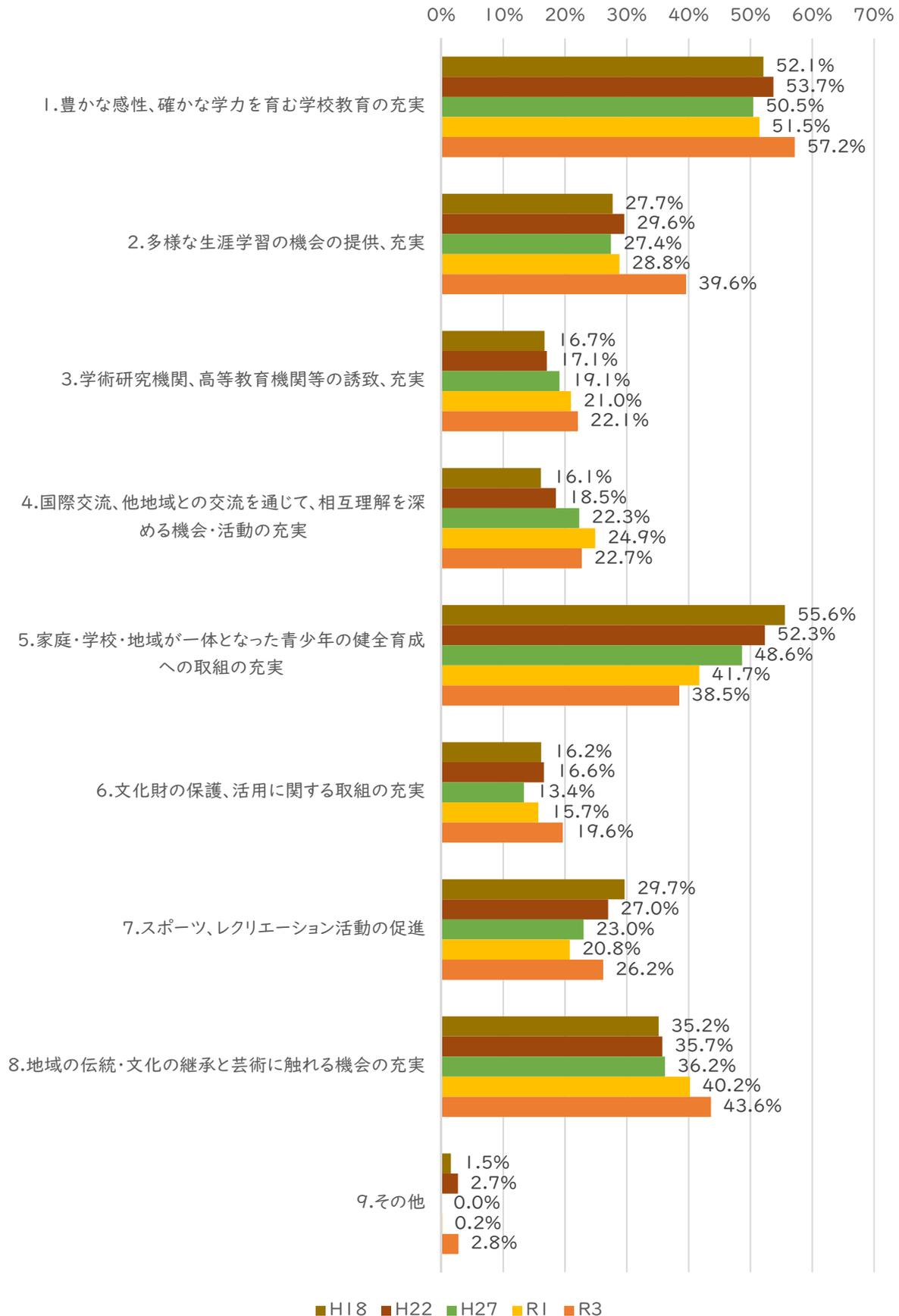
「地域の伝統・文化の継承と芸術に触れる機会の充実」に力を入れて取り組むべきと考える割合は、35.2%（H18）から43.6%（R3）と増加傾向にあります。

また、「多様な生涯学習の機会の提供、充実」に力を入れて取り組むべきと考える割合がH18からR1までは28%前後で推移していましたが、今回は39.6%と10.8ポイントと大きく増加しました。

一方、「家庭・学校・地域が一体となった青少年の健全育成への取組の充実」に力を入れて取り組むべきと考える割合は、55.6%（H18）から38.5%（R3）まで減少傾向にあります。

	R3		R1	
	件数	割合	件数	割合
1.豊かな感性、確かな学力を育む学校教育の充実	725	57.20%	577	51.50%
2.多様な生涯学習の機会の提供、充実	502	39.60%	323	28.80%
3.学術研究機関、高等教育機関等の誘致、充実	280	22.10%	235	21.00%
4.国際交流、他地域との交流を通じて、相互理解を深める機会・活動の充実	288	22.70%	279	24.90%
5.家庭・学校・地域が一体となった青少年の健全育成への取組の充実	488	38.50%	468	41.70%
6.文化財の保護、活用に関する取組の充実	249	19.60%	176	15.70%
7.スポーツ、レクリエーション活動の促進	332	26.20%	233	20.80%
8.地域の伝統・文化の継承と芸術に触れる機会の充実	553	43.60%	451	40.20%
9.その他 (学校設備の老朽化、図書館の充実など)	35	2.80%	2	0.20%

図表2-⑤ 教育、文化、スポーツに関する取組



2—⑥ 次に掲げた項目について、特に重点的に取り組むべきと思う項目と、そのためであれば我慢できると思う項目を、選択肢からそれぞれ3つずつ選び、その番号を記入してください。

特に重点的に取り組むべきと思う項目としては、「医療・保健サービスの充実」30.4%（前回31.4%）が前回同様に最も多く、次いで、「働く場、雇用機会の確保」24.7%（前回14.0%）、「商業街の魅力と賑わい」23.5%（前回14.8%）などについて重点的に取り組むべきとされています。

また、そのためであれば我慢できると思う項目については、「スポーツ、レクリエーションに親しめる環境」23.3%（前回17.2%）が最も多く、次いで、「公園、緑地の整備」20.6%（前回16.2%）、「移動しやすい道路網の整備」20.3%（前回13.4%）などが、そのためであれば我慢できると思われています。

【過去のアンケートとの比較（図表2-⑥及び2-⑥'）】

過去のアンケートと比較すると、今回は、「公共交通機関（鉄道・バス）の利便性」、「農業担い手の確保や経営体の強化」、「商業街の魅力と賑わい」、「働く場、雇用機会の確保」などに特に重点的に取り組むべきと思う割合が大きく増加しています。

そのためであれば我慢できると思う割合についても、「高齢者に対する介護・福祉サービスの充実」、「公園、緑地の整備」、「移動しやすい道路網の整備」、「芸術、文化等に触れ、また活動できる環境」、「生涯学習に取り組みやすい環境」、「スポーツ、レクリエーションに親しめる環境」などの割合が大きく増加しています。

※ 上記のように大きく増加した要因のひとつとして、回答選択数が今回は過去のアンケートよりも増加していることが考えられます。

2-⑥ 特に重点的に取り組むべきと思う項目の選択数

	R3	R1	H27	H22	H18
選択数	2.74	2.3	2.14	2.14	2.41

2-⑥' そのためであれば我慢できると思う項目の選択数

	R3	R1	H27	H22	H18
選択数	2.35	2.01	1.91	2.03	2.13

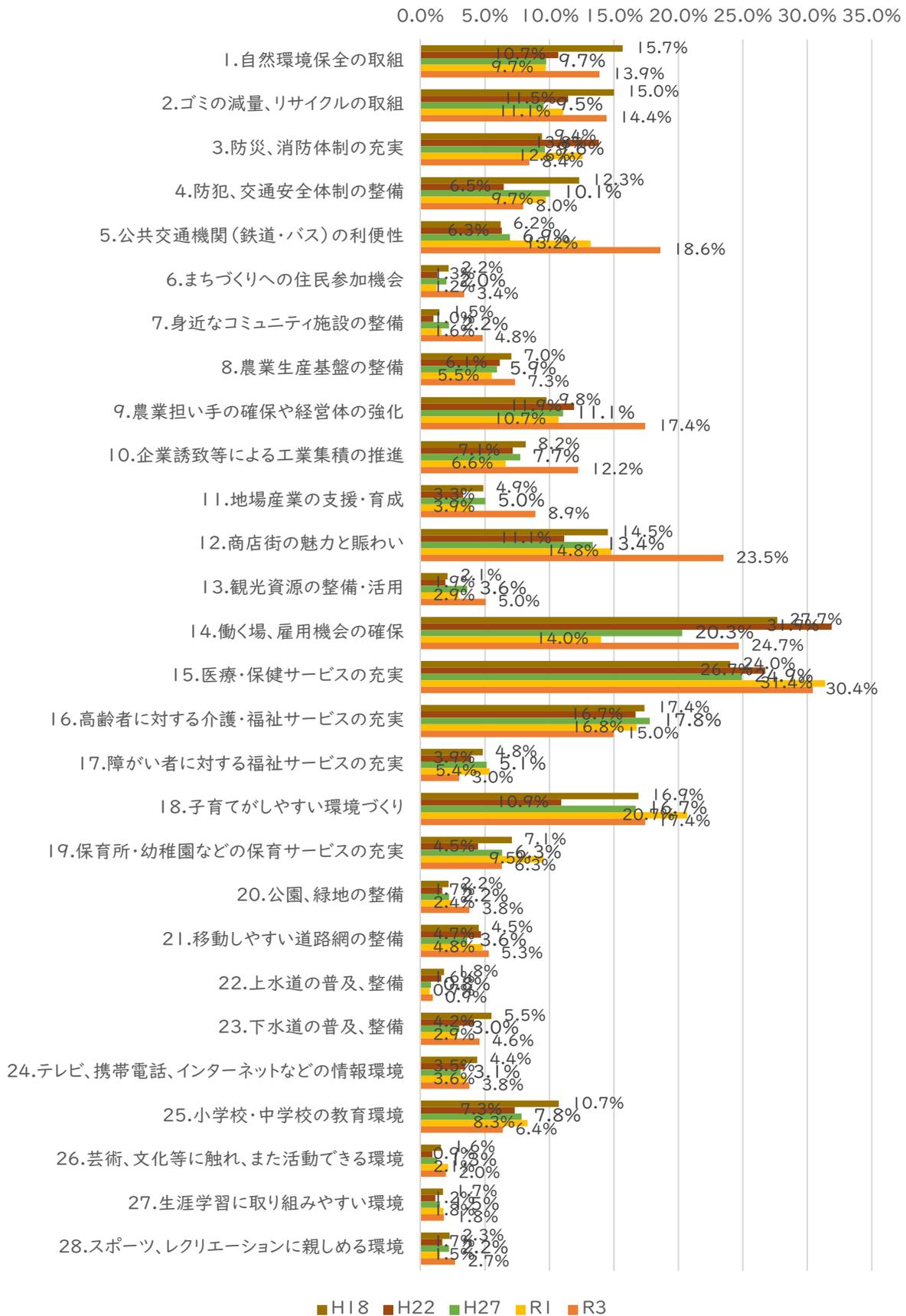
2-⑥ 特に重点的に取り組むべきと思う項目

	R3		R1	
	件数	割合	件数	割合
1.自然環境保全の取組	176	13.90%	109	9.70%
2.ゴミの減量、リサイクルの取組	183	14.40%	124	11.10%
3.防災、消防体制の充実	107	8.40%	141	12.60%
4.防犯、交通安全体制の整備	101	8.00%	109	9.70%
5.公共交通機関（鉄道・バス）の利便性	236	18.60%	148	13.20%
6.まちづくりへの住民参加機会	43	3.40%	14	1.20%
7.身近なコミュニティ施設の整備	61	4.80%	18	1.60%
8.農業生産基盤の整備	93	7.30%	62	5.50%
9.農業担い手の確保や経営体の強化	221	17.40%	120	10.70%
10.企業誘致等による工業集積の推進	155	12.20%	74	6.60%
11.地場産業の支援・育成	113	8.90%	44	3.90%
12.商業街の魅力と賑わい	298	23.50%	166	14.80%
13.観光資源の整備・活用	64	5.00%	33	2.90%
14.働く場、雇用機会の確保	313	24.70%	157	14.00%
15.医療・保健サービスの充実	386	30.40%	352	31.40%
16.高齢者に対する介護・福祉サービスの充実	190	15.00%	188	16.80%
17.障がい者に対する福祉サービスの充実	38	3.00%	60	5.40%
18.子育てがしやすい環境づくり	221	17.40%	232	20.70%
19.保育所・幼稚園などの保育サービスの充実	80	6.30%	107	9.50%
20.公園、緑地の整備	48	3.80%	27	2.40%
21.移動しやすい道路網の整備	67	5.30%	54	4.80%
22.上水道の普及、整備	12	0.90%	8	0.70%
23.下水道の普及、整備	58	4.60%	32	2.90%
24.テレビ、携帯電話、インターネットなどの情報環境	48	3.80%	40	3.60%
25.小学校・中学校の教育環境	81	6.40%	93	8.30%
26.芸術、文化等に触れ、また活動できる環境	25	2.00%	24	2.10%
27.生涯学習に取り組みやすい環境	23	1.80%	20	1.80%
28.スポーツ、レクリエーションに親しめる環境	34	2.70%	17	1.50%

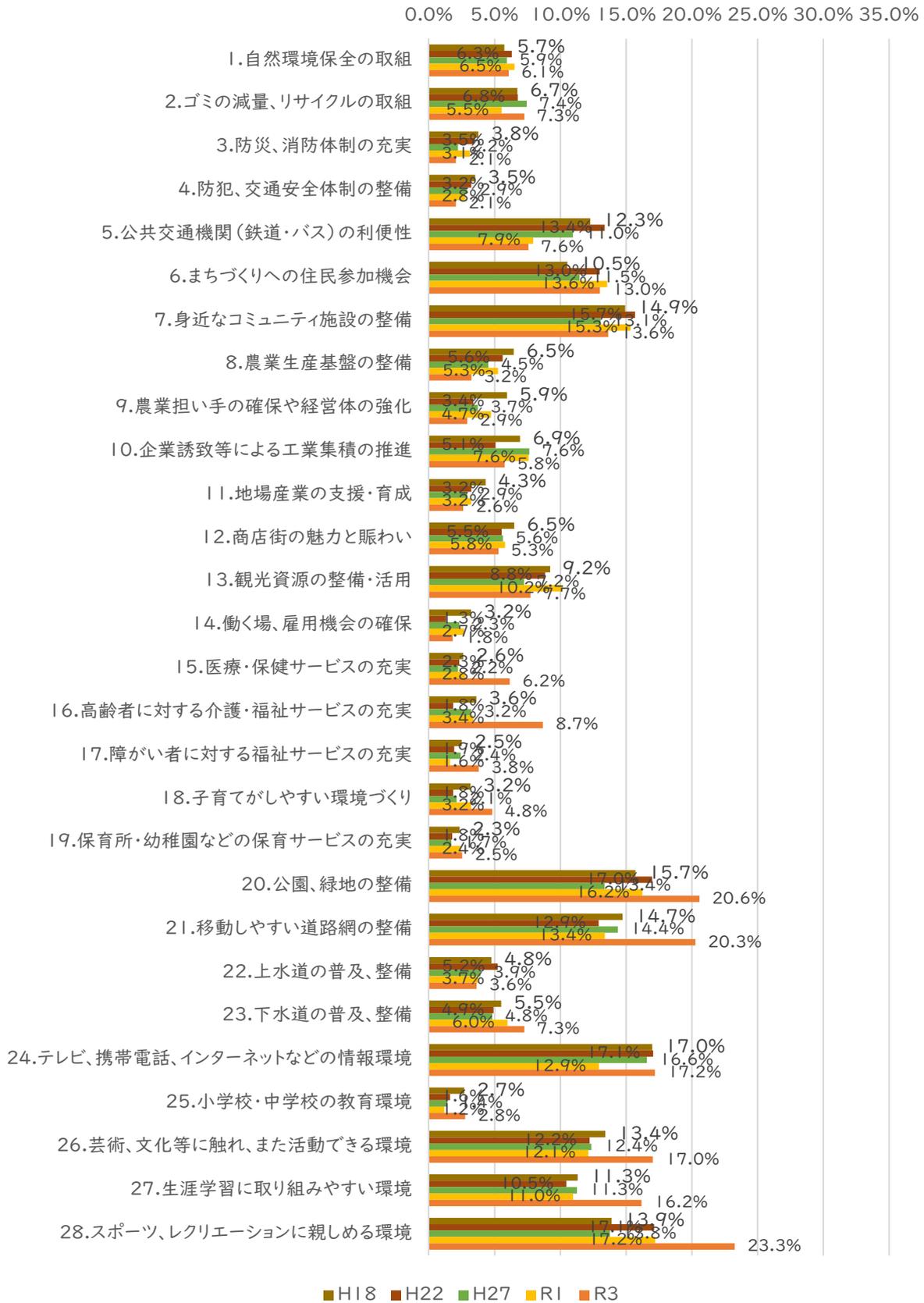
2-⑥' そのためにあれば我慢できると思う項目

	R3		R1	
	件数	割合	件数	割合
1.自然環境保全の取組	77	6.10%	73	6.50%
2.ゴミの減量、リサイクルの取組	92	7.30%	62	5.50%
3.防災、消防体制の充実	26	2.10%	35	3.10%
4.防犯、交通安全体制の整備	26	2.10%	31	2.80%
5.公共交通機関（鉄道・バス）の利便性	96	7.60%	89	7.90%
6.まちづくりへの住民参加機会	165	13.00%	152	13.60%
7.身近なコミュニティ施設の整備	173	13.60%	172	15.30%
8.農業生産基盤の整備	41	3.20%	59	5.30%
9.農業担い手の確保や経営体の強化	37	2.90%	53	4.70%
10.企業誘致等による工業集積の推進	73	5.80%	85	7.60%
11.地場産業の支援・育成	33	2.60%	36	3.20%
12.商業街の魅力と賑わい	67	5.30%	65	5.80%
13.観光資源の整備・活用	98	7.70%	114	10.20%
14.働く場、雇用機会の確保	23	1.80%	30	2.70%
15.医療・保健サービスの充実	78	6.20%	31	2.80%
16.高齢者に対する介護・福祉サービスの充実	110	8.70%	38	3.40%
17.障がい者に対する福祉サービスの充実	48	3.80%	18	1.60%
18.子育てがしやすい環境づくり	61	4.80%	36	3.20%
19.保育所・幼稚園などの保育サービスの充実	32	2.50%	27	2.40%
20.公園、緑地の整備	261	20.60%	182	16.20%
21.移動しやすい道路網の整備	257	20.30%	150	13.40%
22.上水道の普及、整備	46	3.60%	42	3.70%
23.下水道の普及、整備	92	7.30%	67	6.00%
24.テレビ、携帯電話、インターネットなどの情報環境	218	17.20%	145	12.90%
25.小学校・中学校の教育環境	35	2.80%	13	1.20%
26.芸術、文化等に触れ、また活動できる環境	216	17.00%	136	12.10%
27.生涯学習に取り組みやすい環境	205	16.20%	123	11.00%
28.スポーツ、レクリエーションに親しめる環境	295	23.30%	193	17.20%

図表2-⑥ 特に重点的に取り組むべきと思う項目



図表2-⑥' そのためにあれば我慢できると思う項目



(3) 新型コロナウイルス感染症の流行による影響等について

3—① 家庭で「困っていること」は何ですか？ あてはまるものを全て選んでください。

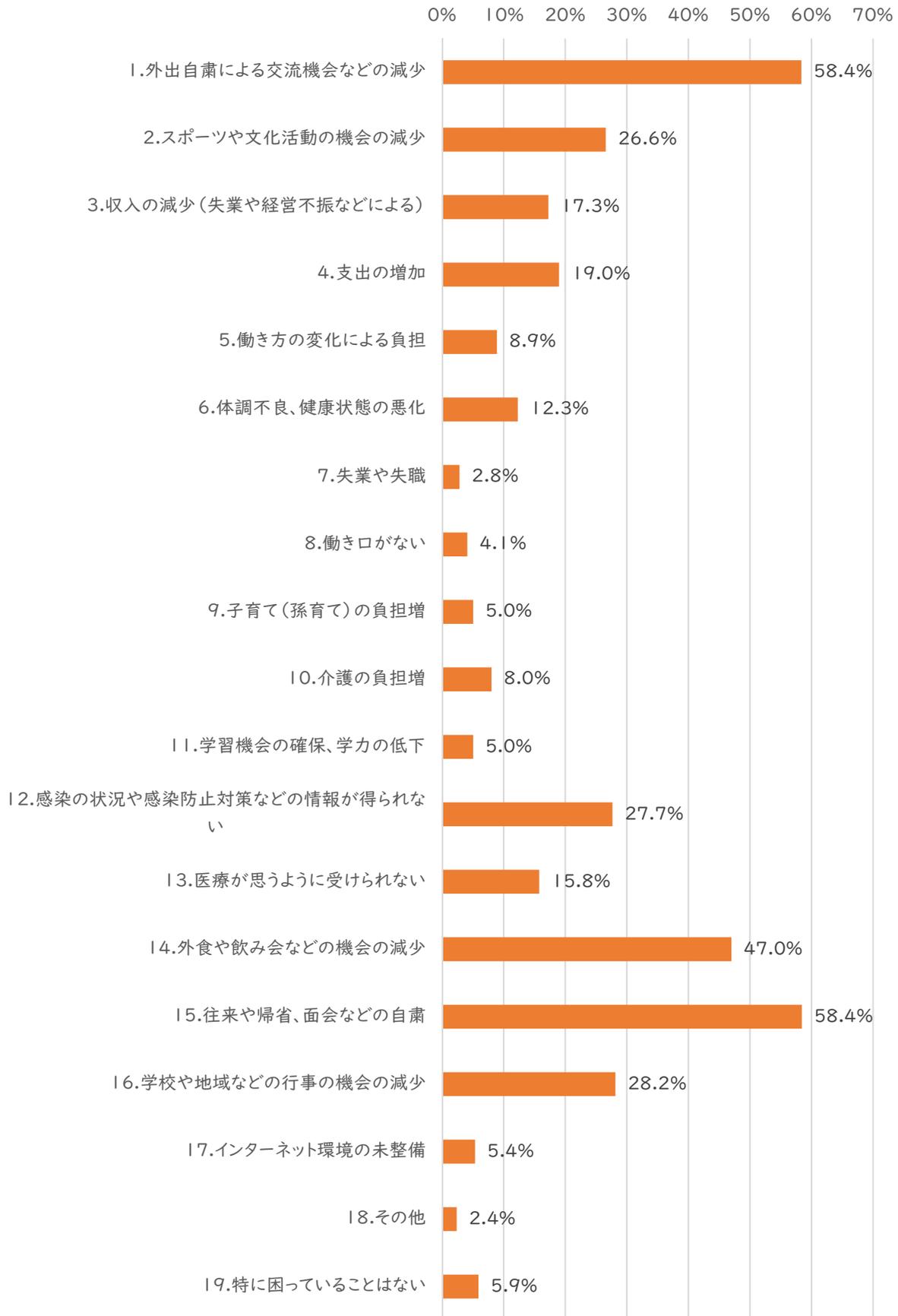
※ 項目(3)は、新型コロナウイルス感染症の流行による市民生活の影響を把握するため、本アンケートにのみ設定された項目です。

家庭で「困っていること」については、「外出自粛による交流機会などの減少」58.4%、「往来や帰省、面会などの自粛」58.4%、「外食や飲み会などの機会の減少」47.0%について、多くの回答者が困っていると答えています

一方、「特に困っていることはない」と回答した割合は5.9%でした。

	R3	
1.外出自粛による交流機会などの減少	740	58.40%
2.スポーツや文化活動の機会の減少	337	26.60%
3.収入の減少（失業や経営不振などによる）	219	17.30%
4.支出の増加	241	19.00%
5.働き方の変化による負担	113	8.90%
6.体調不良、健康状態の悪化	156	12.30%
7.失業や失職	36	2.80%
8.働き口がない	52	4.10%
9.子育て（孫育て）の負担増	64	5.00%
10.介護の負担増	102	8.00%
11.学習機会の確保、学力の低下	64	5.00%
12.感染の状況や感染防止対策などの情報が得られない	351	27.70%
13.医療が思うように受けられない	200	15.80%
14.外食や飲み会などの機会の減少	596	47.00%
15.往来や帰省、面会などの自粛	741	58.40%
16.学校や地域などの行事の機会の減少	357	28.20%
17.インターネット環境の未整備	68	5.40%
18.その他 (感染情報が開示されない、差別等が怖いなど)	30	2.40%
19.特に困っていることはない	75	5.90%

図表3-① 家庭で困っていること

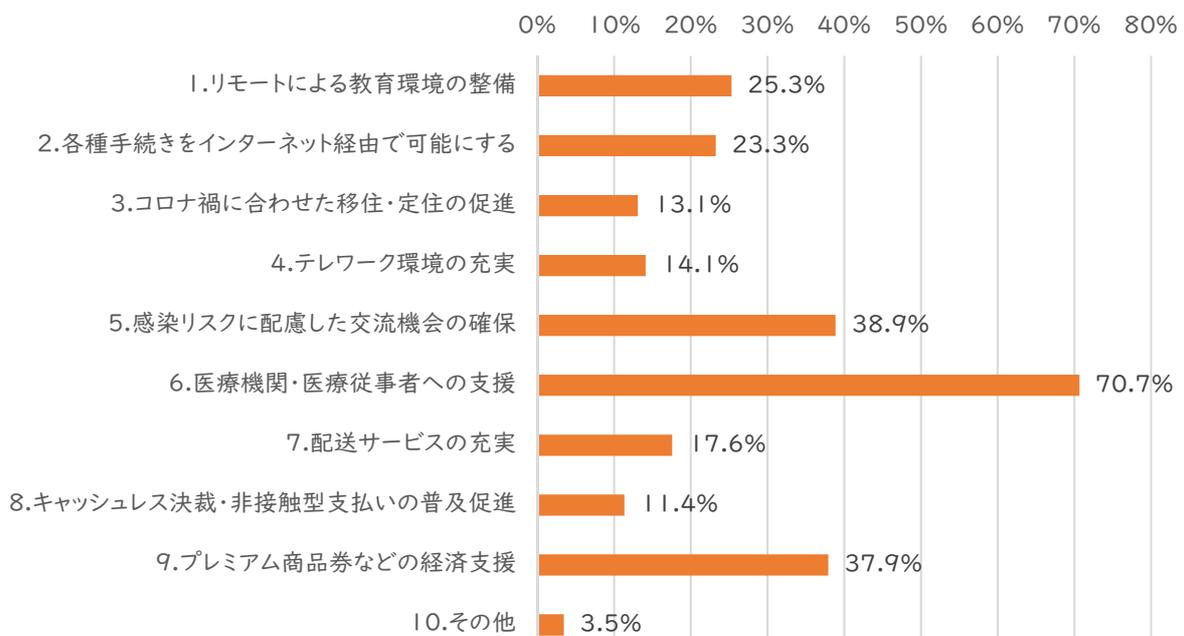


3—② 教育や経済などの活動を停滞させないための間接的な感染対策で、優先的に実施してほしいと考えるものを3つ選んでください。

教育や経済などの活動を停滞させないための間接的な感染対策で、優先的に実施してほしいと考えるものについては、「医療機関・医療従事者への支援」70.7%が最も多く、次いで「感染リスクに配慮した交流機会の確保」38.9%、「プレミアム商品券などの経済支援」37.9%などについて優先的に実施してほしいと考えられています。

	R3	
1.リモートによる教育環境の整備	321	25.30%
2.各種手続きをインターネット経由で可能にする	295	23.30%
3.コロナ禍に合わせた移住・定住の促進	166	13.10%
4.テレワーク環境の充実	179	14.10%
5.感染リスクに配慮した交流機会の確保	493	38.90%
6.医療機関・医療従事者への支援	896	70.70%
7.配送サービスの充実	223	17.60%
8.キャッシュレス決済・非接触型支払いの普及促進	144	11.40%
9.プレミアム商品券などの経済支援	481	37.90%
10.その他 (PCR検査拡充、感染情報の発信、分からないなど)	44	3.50%

図表3-② 優先的に実施してほしいと考えるもの



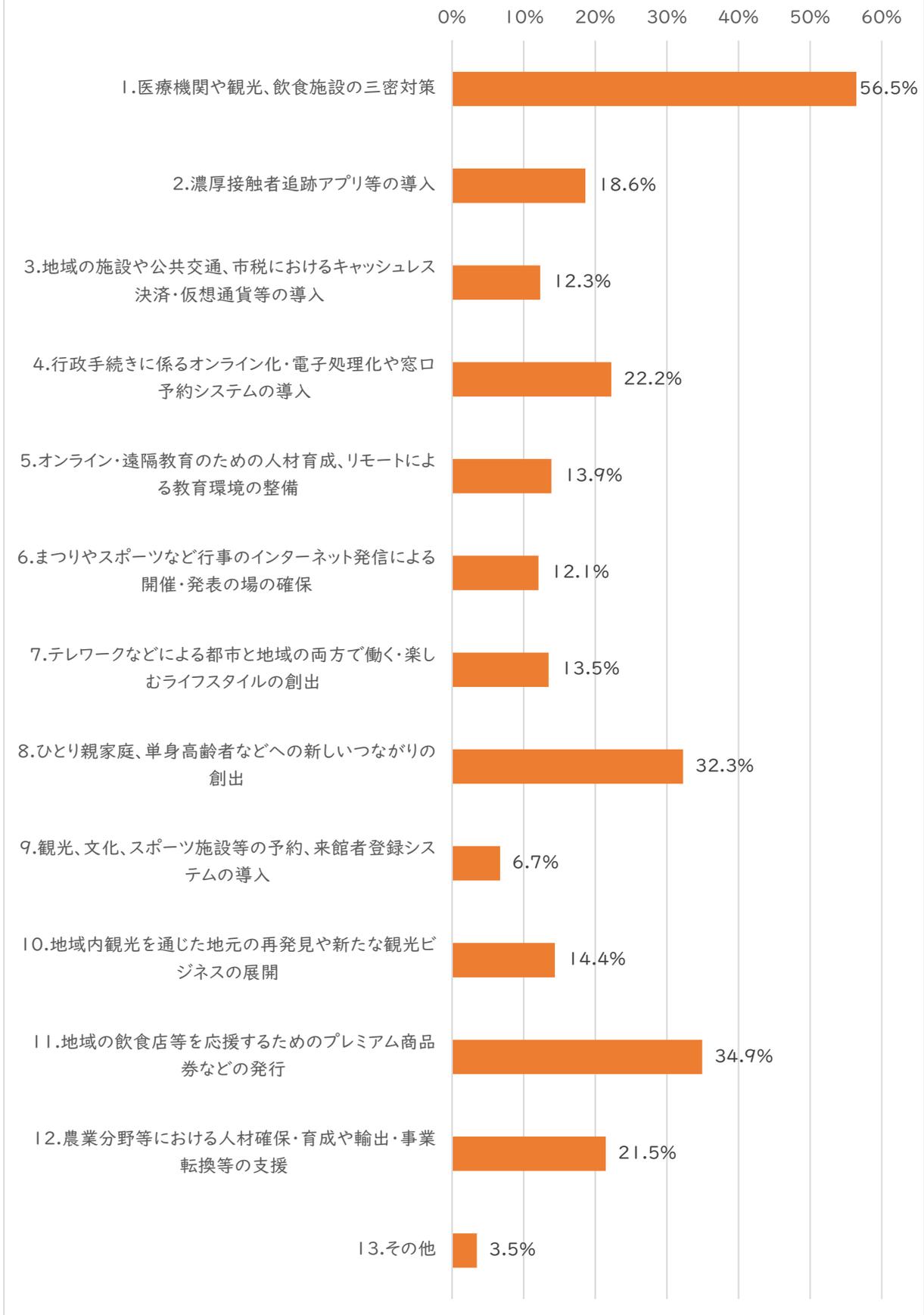
3—③ 「新しい生活様式」を踏まえ、中長期的に実施してほしいと考えるものを3

つ選んでください。

「新しい生活様式」を踏まえ、中長期的に実施してほしいと考えるものについては、「医療機関や観光、飲食施設の三密対策」56.5%が最も多く、次いで、「地域の飲食店等を応援するためのプレミアム商品券などの発行」34.9%、「ひとり親家庭、単身高齢者などへの新しいつながりの創出」32.3%などの回答が多くなりました。

	R3	
1.医療機関や観光、飲食施設の三密対策	716	56.50%
2.濃厚接触者追跡アプリ等の導入	236	18.60%
3.地域の施設や公共交通、市税におけるキャッシュレス決済・仮想通貨等の導入	156	12.30%
4.行政手続きに係るオンライン化・電子処理化や窓口予約システムの導入	282	22.20%
5.オンライン・遠隔教育のための人材育成、リモートによる教育環境の整備	176	13.90%
6.まつりやスポーツなど行事のインターネット発信による開催・発表の場の確保	153	12.10%
7.テレワークなどによる都市と地域の両方で働く・楽しむライフスタイルの創出	171	13.50%
8.ひとり親家庭、単身高齢者などへの新しいつながりの創出	409	32.30%
9.観光、文化、スポーツ施設等の予約、来館者登録システムの導入	85	6.70%
10.地域内観光を通じた地元の再発見や新たな観光ビジネスの展開	182	14.40%
11.地域の飲食店等を応援するためのプレミアム商品券などの発行	443	34.90%
12.農業分野等における人材確保・育成や輸出・事業転換等の支援	272	21.50%
13.その他 (感染情報の発信の迅速化、よく分からない、なしなど)	44	3.50%

図表3-③ 中長期的に実施してほしいと考えるもの



(4) 奥州市合併に対するあなたのお考えについて

4—① 奥州市が合併する際に、「合併の必要性」として掲げられた以下の項目について、合併前（平成17年以前）や合併直後と比べて、現在、あなたはどのように感じていますか？それぞれの項目について該当する箇所を選んでください。

「良くなった」、「やや良くなった」と感じる割合が最も多かったのは、「(3) 生活圏拡大に伴う広域的な行政需要への対応」18.3%であり、次いで、「(5) 安定した自治体運営を可能とする行財政基盤強化への対応」17.7%でした。

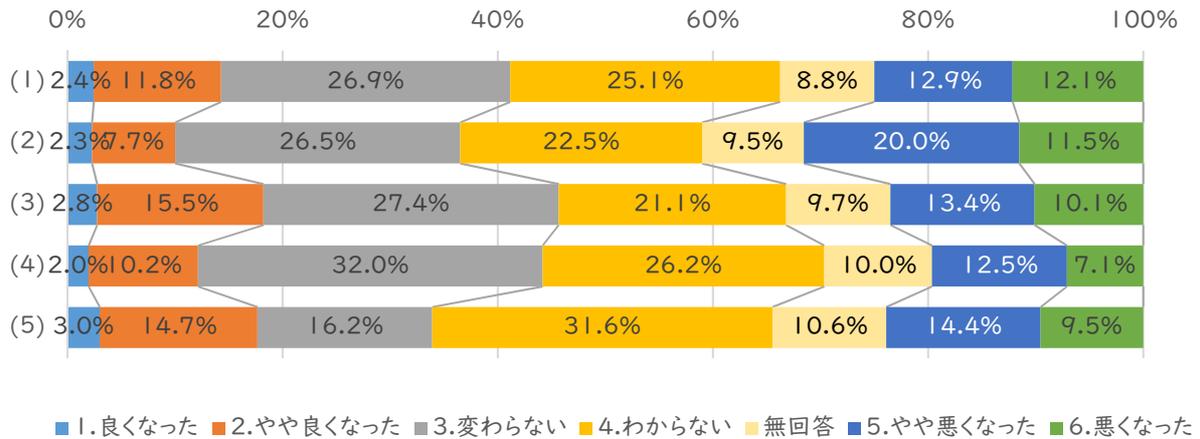
一方、「やや悪くなった」、「悪くなった」と感じる割合が最も多かったのは、「(2) 高度化・多様化する住民ニーズへの対応」31.5%であり、次いで、「(1) 急速に進む少子高齢社会への対応」25.0%となっています。

また、奥州市全体の割合と年代別を比較すると、「良くなった」、「やや良くなった」と感じる割合は、「20代」18.2%、「80代」17.8%、「40代」17.6%、「70代」16.3%の順に高く、「やや悪くなった」、「悪くなった」と感じる割合は、「60代」33.3%が高くなっています。

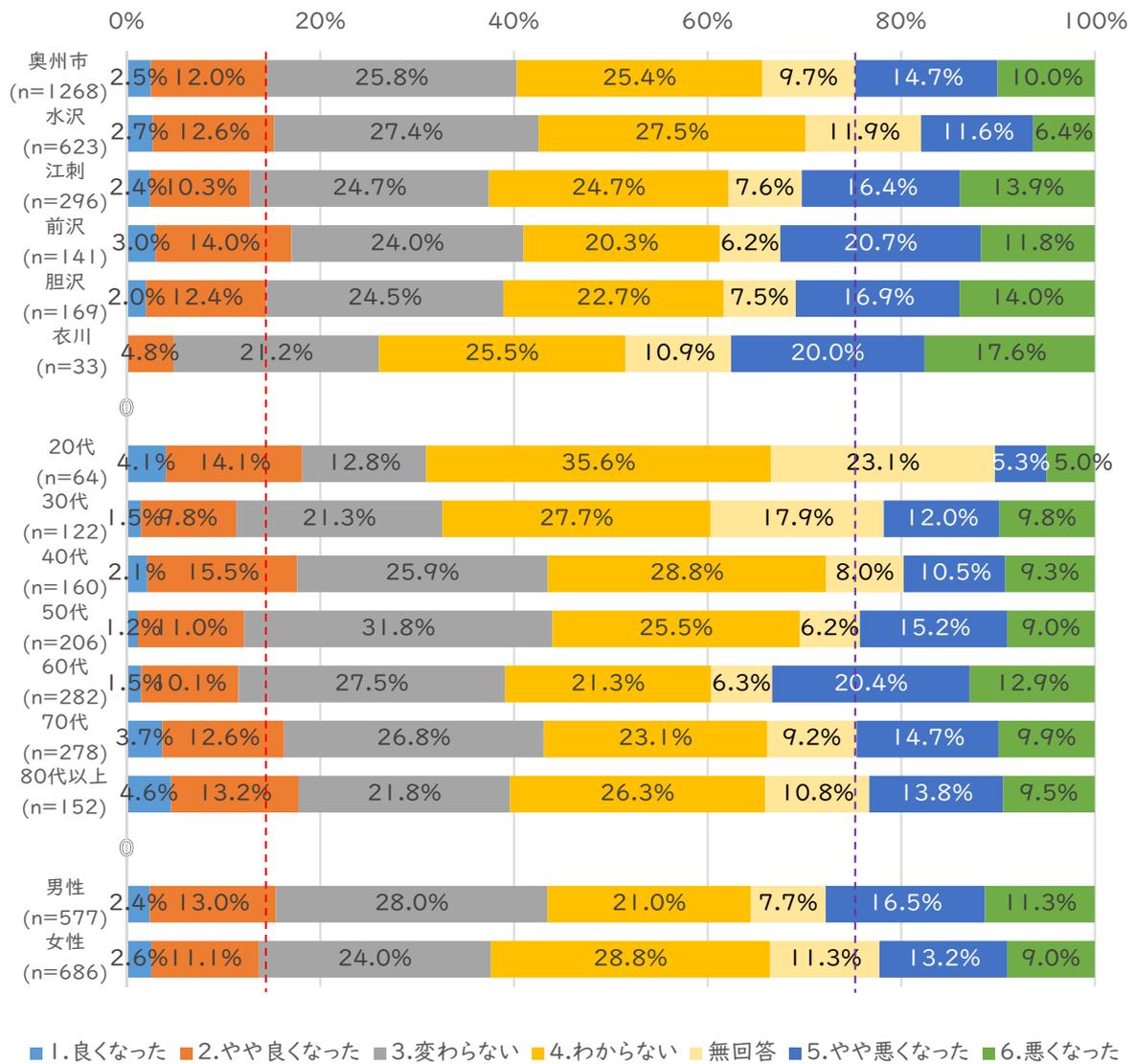
※ 属性別の集計は、母集団に対するサンプル数が少ない属性もあり、実態と誤差が生じている可能性があることから、参考値としてください。

	良 く な っ た	や や 良 く な っ た	変 わ ら な い	わ か ら な い	や や 悪 く な っ た	悪 く な っ た	無 回 答
(1) 急速に進む少子高齢社会への対応	31 2.40%	150 11.80%	341 26.90%	318 25.10%	163 12.90%	154 12.10%	111 8.80%
(2) 高度化・多様化する住民ニーズへの対応	29 2.30%	98 7.70%	336 26.50%	285 22.50%	254 20.00%	146 11.50%	120 9.50%
(3) 生活圏拡大に伴う広域的な行政需要への対応	35 2.80%	196 15.50%	348 27.40%	268 21.10%	170 13.40%	128 10.10%	123 9.70%
(4) 自主・自立を支える地方主権拡充への対応	25 2.00%	129 10.20%	406 32.00%	332 26.20%	159 12.50%	90 7.10%	127 10.00%
(5) 安定した自治体運営を可能とする行財政基盤強化への対応	38 3.00%	186 14.70%	206 16.20%	401 31.60%	182 14.40%	121 9.50%	134 10.60%

奥州市合併に対するあなたのお考えについて



奥州市の合併に対するあなたのお考えについて(属性別)



4—② (自由記載) 上記4—① において、そのように感じた具体的な理由、合併に関する評価、今後奥州市に期待すること、懸念していることなどを記入してください。

本アンケート回答者1,268人のうち、481人(37.9%)の方から「自由記載」欄へ合併に関する評価、今後の奥州市に対するご意見・ご要望等をいただきました。

いただいた回答の主な意見等については図表117のとおりです(同じ趣旨の内容については集約させていただき、主な意見を掲載しています。なお、回答の中に複数分野に対するご意見があるため、回答者数と件数の合計は一致しません。)

【図表117】「自由記載」欄への合併に関する評価等の分類

項目	分野	件数	主な意見等
(1) 急速に進む少 子高齢社 会への対 応	子育て支援	73	小児科、産婦人科のある病院の整備、子供が遊べる場の確保、子供の医療費負担の軽減など
	教育	11	小中学校の学区の見直し、部活動への任意加入、オンライン授業のための環境整備、ジェンダーレス制服の導入など
	結婚支援	7	男女の出会いの機会の創出、結婚ができるような取組・支援をしてほしいなど
	医療・福祉・介護等の拡充	54	新水沢病院の建設を進めてほしい・反対する、高齢者支援・介護サービス(施設)の充実など
	雇用の確保	10	企業誘致等による若い世代の雇用の場の確保など
	その他の(1)関連	33	急速に進む少子高齢化・人口減少に不安、高齢者だけでなく若者に対する支援をしてほしいなど
(2) 高度化・多様化する住 民ニーズ への対 応	行政サービス	17	証明書のコンビニ交付・税等のコンビニ納付などの利便性の向上、開庁時間の延長・土日開設の希望など
	市民窓口	13	市役所の手続きがどの総合支所でもできる・短時間になった、総合支所で手続きが済まないことが増えたなど
	市税・保険料等	28	市民税・国保税・介護保険料の負担増、水道料金の増、給食費の増など
	その他の(2)関連	19	祝日のごみ収集、市の情報発信の拡充、ILC 誘致に関する事、市民の声を聞く機会を増やしてほしいなど

項目	分野	件数	主な意見等
(3) 生活圏拡大に伴う広域的な行政需要への対応	道路	28	市道の舗装整備、街灯整備、街路樹の整備、除雪に関する要望など
	上下水道	8	上下水道の整備推進に関する意見など
	農林業	9	農業の担い手確保、農業の法人化・近代化の推進など
	商工業・観光振興	26	商業施設・娯楽施設の誘致、水沢駅前商店街の活性化など
	交通手段・公共交通	22	高齢者に対する移動手段の確保、バス本数増の要望など
	その他の(3)関連	15	公園整備、雪捨て場の確保など
(4) 自主・自立を支える地方主権拡充への対応	地域コミュニティ	8	自治会運営が困難になっている、住民意識の向上を図ってほしいなど
	地域の活気や賑わい	18	町全体（商店街など）に活気がなくなってきているなど
	治安・防災	2	災害対策の拡充など
	その他の(4)関連	1	自立に対して考えるようになった
(5) 安定した自治体運営を可能とする行財政基盤強化への対応	職員数適正化	11	市職員の人件費の削減、AI導入による職員削減など
	財政健全化	27	財政状況の健全化、職員給与の削減など
	幼保・小・中学校等の再編	18	廃校となった学校の利活用、小中高の統廃合への不満・反対など
	公共施設等の統廃合	12	公共施設の民間移譲を推進すべき・反対するといった意見、統廃合による利便性（料金値上げなど）が悪くなったなど
その他の自由記載	合併に対する評価、コロナ対応、アンケートに関する意見など		合併は正解だった、合併しても変わらなかった、旧市町村間の均衡ある発展を進めてほしい、奥州市としての一体感の醸成が必要、これからの奥州市に期待したいなどの合併に対する意見、コロナ対策（医療体制やワクチン接種など）への意見、アンケートの方法や対象者などに関する意見・要望、その他の意見など

奥州市総合計画後期基本計画策定及び今後の総合戦略推進に向けたワークショップ
「TNGR（つながる）」実施結果について

1 目的

「奥州市総合計画後期基本計画」の策定及び「奥州市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の推進にあたり、市の将来を担う世代や地域の協働の新たな担い手の視点により、まちづくりに対する課題を抽出し、参考とすることを目的としたもの。

2 開催日時

令和3年7月15日（木）午後2時～4時15分

3 開催場所

奥州市役所講堂

4 参加者の状況

区分	人数	内訳
包括連携協定締結企業	13名	男：7、女：6 20～29歳：6、30～39歳：4、40歳～：3
協働のまちづくりアカデミー	6名	男：4、女：2 30～39歳：2、40歳～：4
市職員	6名	男：5、女：1 20～29歳：4、30～39歳：1、40歳～：1
計	25名	男：16、女：9 20～29歳：10、30～39歳：7、40歳～：8 ※平均年齢34.7歳

※ワークショップのファシリテーターは市職員等が行った。

※ワークショップの様子を市議会議員8名、市総合計画審議会委員1名、関係団体2名が傍聴した。

5 実施結果の取扱い

- (1) ワークショップの実施結果については、市広報紙及び市ホームページにて公表する。
- (2) いただいた意見等については、「奥州市総合計画後期基本計画」の策定、「奥州市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の推進等、今後のまちづくりにおける参考とする。
- (3) 次回以降については、今回のワークショップの参加者構成を基本に、まちづくりに係るテーマを選定のうえ、今年度の秋以降に「奥州市の将来を語る会」の一環としての開催を予定する。

6 ワークショップの結果（概要）

1班 テーマ：安定した雇用と新しい産業の創出
参加者7名（企業：4、アカデミー：2、市職員1）
<p>【現状課題の整理】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・奥州市にはたくさんいいものがあるが発信しきれていない。PR不足。 ・若者の視点で集える場所、働ける場所、魅力のある場所にならないと若者は戻ってこない。
<p>【課題解決の方向性、取り組み内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・奥州市が注目集めるために、藤原の郷でのコスプレフェスを一大イベントにして、全国各地から参加者を募る。 ・後藤新平の大河ドラマを実現する。 ・水沢駅通りの活性化のためIT企業を誘致する。空き店舗を有効活用し、人を雇う、人が集まる場所とする。 ・若者世代が一日楽しめる場所として、古くなった家をリノベーションして、他にない宿泊施設とする。 ・奥州ラーメン、奥州カレーを開発する。トッピングは奥州市産のものにする。 ・奥州市はPR不足が課題なので、住んでいる人が、まちの自慢をタイムリーにできる環境を整備する。 ・首都圏にいと奥州市の職場を知る機会が少ない。有名人に奥州市の企業で働く体験をしていただき、それを首都圏向けに発信する。 ・コロナ禍でテレワークが進むと、首都圏で働く必要もなくなる。温泉、古民家でテレワークをする環境をつくり、首都圏等に発信する。



【総務企画部長講評】

- ・地元の高校生や市外に出た若者に市内の企業を知ってもらうことは本当に必要なことと感じた。江刺、金ヶ崎、北上の工業団地での出荷額は東北一で、大手の誘致企業の給与水準は東京と一緒にある。そういった部分も含め知っていただく機会を創出していきたい。
- ・藤原の郷でのコスプレには多くの若者が来る。それを機会に繋げていければ。
- ・市のPR不足については、ご指摘のとおりであるので、都市プロモーション課を中心に改善していきたい。

2班 テーマ：出会いを通じた結婚支援、子育て環境ナンバーワンへ
参加者6名（企業：2、アカデミー：1、市職員3）
<p>【現状課題の整理】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出会いの場が少ない。デートスポット、社交の場がない。 ・出産できる環境が整っていない。 ・子どもが遊べる場所が少ない。 ・若者は経済的に不安定で、そもそも時間がない。
<p>【課題解決の方向性、取り組み内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主要課題を出会いの場の創出に設定 ・出会い創出のイベントとして、ビアガーデン、ワンコインで温泉を回る企画や、藤原の郷のホテル鑑賞イベントでの合コンの実施。 ・若い人から都市伝説を聞き取りし、市内にデートスポットを設定する。以前、江刺の夢の橋のフェンスに縁結びの鍵（南京錠）をかけられたが、今は撤退された。そういったデートスポット的な場所を作る。 ・アウトドア、キャンプなど、自然を楽しみながらの合コンイベントの開催。カップルが成立したらデートで使ってもらうため、市内飲食店での食事券の補助をする。 ・SNSでの周知が必要。イベントを知らない若者が多い。仕切りを低くして様々な方法で宣伝する。 ・今回のワークショップTNGRの場のように、企業間の交流する場を設定することが出会いの場に繋がるのではないか。



<p>【総務企画部長講評】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・結婚する前に、キャンプなどを通じ共同作業をし、互いを知ることは必要なことである。 ・夢の橋の縁結びの鍵（南京錠）のフェンスがなくなったのはその通り。何らかのデートスポット的なものを作ることは必要なことと感じた。 ・このワークショップのような企業同士の集まる場が、出会い創出の機会になることはなるほどと思った。今後も継続していければと考える。

3班 テーマ：体験を通じた奥州ファンの開拓
参加者6名（企業：3、アカデミー：2、市職員1）
<p>【現状課題の整理】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・奥州市の特色として「災害に強いところ」などがある ・奥州市の魅力を知る機会が少ない。
<p>【課題解決の方向性、取り組み内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主要課題をPRの仕方に設定 ・市民を洗脳する。小中学校時代に奥州市の魅力を知る機会を作ることにより、就職活動の年代になった時に、地元に戻って働きたいと思ってもらうことに繋げる。 ・情報発信のターゲットを明確にする。 ・市民を巻き込み、連携する。市民にオリジナルパンフレットを作ってもらい、マンネリ化している祭りのコラボレーションを企画していただく。 ・市民それぞれが得意分野を活かした情報発信をする。 ・定期的な市の魅力動画の発信をする。 ・人（ひと）にスポットを充てた情報発信をする。その人がキーパーソンとなることで、奥州ファンの獲得に繋げる。



<p>【総務企画部長講評】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民を洗脳するというキーワードであったが、子どもの頃に奥州市の良さなどの事実を教えることは非常に大切なこと。子どもの頃の親の言葉というのは、大人になってから非常に貴重なものとなる。 ・職員採用試験で面接を行うと、奥州市のPRにおいて足りないものとしてインスタとよく言われる。市外へのプロモーションもだが、市民に対するプロモーションも重要。市民が本気で奥州市の「ここがいい」と思えば、自然と口コミで良さが広がる。

4班 テーマ：地域愛の醸成と、安心・安全に生活できる個性豊かな地域社会の実現

参加者6名（企業：4、アカデミー：1、市職員1）

【現状課題の整理】

- ・人口が流失している。仕事の選択肢が少ない。
- ・奥州市のイメージが良くない。
- ・交通事故が多い。街灯が少ない。
- ・活性化しているところとそうでないところが両極端で、奥州市全体としてのバランスが悪い。緑を活かしきれていない。

【課題解決の方向性、取り組み内容】

- ・主要課題を生活環境の改善に設定
- ・奥州市にいる人たちをどうグリップするか。これから奥州市に来る人と若い人をどう繋げるかが必要。
- ・コンパクトシティを進めるべき。東京や大阪は利便性がよく、行きたいところが見つかる。車がなくても徒歩や自転車で用を足せる。
- ・岩手に移住すると、移動手段として車が必要となる。また、寒冷地であることから、冬の電気、ガス代が高くなることで、日常生活における固定費が上がる。そこに焦点を絞った施策が必要。
- ・犯罪、事故や、災害が少ない地域であることを首都圏等にPRし、人を呼び込む施策が必要。



【総務企画部長講評】

- ・生活環境をよくすれば、人口流出を防げるということはその通りで、ひとつの切り口に力を入れて、全体をよくする循環を行うことは必要なこと。
- ・県外から転勤された方の意見は非常に貴重なものであった。コンパクトシティの観点も含め議論していかないとならないと感じた。
- ・まさに地域愛の醸成に繋がるよう、集中して取り組まないといけない。

奥州市版SDGsについて



2021年11月 奥州市

奥州市版SDGsについて

1 目的

2015年9月に「持続可能な開発のための2030アジェンダ」として国連総会の全会一致で採択されたSDGsについて、市が実施する施策についても、17の持続可能な開発目標をそれぞれの分野における取組との関連を踏まえ、持続可能な社会の実現に向け、多様な主体においてそれぞれ連携・協働による取組を進めます。

SDGsは世界的な取組であり、地域ごとに取組むべき課題が異なるとともに、解釈も人それぞれであるため、関係者の共通理解を図る必要があると考えます。

このことから、こどもからお年寄りまで、SDGsをより身近なものとして、市民がひとつとなつてSDGsに資する取組を推進していけるよう、SDGsに市の特徴を取り入れるなど、なじみやすいものとした「奥州市版のSDGs」を作成しました。

【イメージ図】



2 策定の経過

- (1) 第2回総合計画策定庁内ワーキンググループ会議（2021年5月28日開催）にて、SDGsの概要について学習
講師：環境学習交流センター
- (2) 複数の参考書をもとにSDGsの解釈一覧表を作成
- (3) 第3回総合計画策定庁内ワーキンググループ会議（2021年8月30日開催）にて、(2)の解釈一覧表をもとに、奥州市環境市民会議 奥州めぐみネットにアドバイザーとしてご協力をいただき、総合計画の施策とSDGsの17のゴールの関連性を確認
また、ワーキンググループ員にて奥州市版SDGsにおけるキャッチフレーズ案及び奥州市版SDGsのアイコンのイメージ（構成要素など）を検討
- (4) (3)の奥州市版キャッチフレーズ案などをもとに、奥州市版SDGsの17のアイコン案を作成

※奥州市版SDGs作成のための“解釈一覧”やオリジナルアイコンなどは、庁内で職員が作成

3 奥州市版SDGsの今後の活用について

- (1) 市の各種計画等の推進において、奥州市版SDGsを意識した取組を進め、SDGsに対する職員の理解を深めてまいります。
- (2) 市の将来を担う世代や協働の担い手、連携企業などの多様な主体からの意見を取り入れながら、奥州市版SDGsの普及や具体的な活用策を検討し、推進してまいります。



SDGs 解釈一覧及び奥州市版SDGs

【出典】外務省「持続可能な開発目標（SDGs）と日本の取組」より

SDGs	5 P	概要	トピック	キーワード	奥州市版	アクションの例
1	1 貧乏をなくす	あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる	・絶対的貧困の撲滅 ・相対的貧困の撲滅 ・社会保障制度による対策の実施 ・種々の気象、経済、社会、環境に対する脆弱性への対策 ・貧困層やジェンダー※1への配慮	・経済的な困窮 ・貧困の差 ・貧困母子（父子）家庭 ・社会的包摂※2	1 貧乏をなくす	・給付 ・助成 ・援助 ・相談 ・制度や仕組みの構築 ・教育、学習
2	2 飢餓をゼロに	飢餓を終わらせ、食糧安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する	・栄養不良の解消、食料の確保、飢餓の撲滅 ・農業生産性と所得の向上 ・強靱な農業（対気候変動、極端な気象現象）	・高付加価値化（生産技術、物流、加工技術） ・持続可能な食糧生産システム（農業システム） ・生態系、生物多様性の維持 ・フェアトレード※3による児童労働や労働力の搾取の排除 ・市民の栄養改善	2 おいしいと安全を届けよう	・農業（栽培、生産方法、技術支援、農地管理）への支援 ・商業（販売、取引、広告）への支援 ・工業への支援、誘致 ・輸送 ・技術開発支援、新技術、新方式採用支援 ・コンプライアンス※4の遵守による環境負荷軽減 ・コンプライアンスの遵守による雇用環境の改善 ・健康
3	3 すべての人に健康と福祉を	あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する	・妊婦、小児の死亡率の削減 ・感染症、伝染病への対処 ・死亡原因削減のための精神保健、福祉 ・促進自殺率の低下 ・薬物、アルコール、たばこなどの乱用防止 ・交通事故死亡者の削減 ・有害化学物質、大気、水質、土壌汚染による死亡・疾病の減少	・新型コロナウイルス感染症 ・結核、HIV※5、マラリア ・交通事故 ・水、衛生、医療環境 ・関連する教育支援	3 心身の健康と安全をみんなに	・医療 ・保健（法令遵守、施設設備、技術開発） ・交通 ・環境保全 ・上下水道整備 ・維持管理、水質 ・教育（薬物、アルコール、生存環境）
4	4 質の高い教育をみんなに	すべての人々への、包摂かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する	・あらゆる世代に対する持続可能な社会の構築のための課題を把握するための教育	・学校教育 ・生涯学習 ・職場での訓練 ・学習や教育環境の整備、機会の創出、確保	4 自由に学べる環境をみんなに	・教育（施設、人材、機会、内容） ・学習（施設、人材、機会、内容） ・教育機関（学校等）におけるカリキュラムはもとより、全世代対象の学習やOJT※6
5	5 ジェンダー平等を実現しよう	ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う	・政治、経済、教育、健康等におけるジェンダーギャップの解消	・ジェンダー ・D.V（ドメスティック・バイオレンス）※7 ・女性の能力向上 ・機会の平等	5 お互いを尊重し合おう	・D.V（ドメスティック・バイオレンス）への対応 ・ジェンダーの学習、意識、教育 ・女性の社会進出の取組み
6	6 安全な水と衛生の確保	すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する	・上下水道、トイレの整備、治山治水などの幅広い水政策の実施、水圏生態系の保護や回復	・上下水道 ・森林保護 ・トイレ、合併浄化槽の整備 ・森林、河川、山地、湖沼、生態系	6 きれいな水を今も未来も	・安全な水利用環境の整備 ・水源としての環境保護 ・衛生環境の保全
7	7 安全なエネルギー	すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する	・再生可能エネルギーの推進、転換	・太陽光、風力、水力、地熱、バイオマス	7 豊かな自然を大切にしよう	・温暖化対策として温室効果ガス削減の施策の検討、実施 ・再生エネルギーやその他のエネルギー関連の先進技術の導入、利用促進（制度、情報発信）
8	8 働きがい、経済成長を	包摂かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセントワーク）を促進する	・持続可能な社会づくりのための経済成長、雇用創出や企業、ディーセントワーク※8の促進	・ディーセントワーク ・児童労働の撲滅 ・労働搾取の撲滅 ・経済関連施策 ・労働関係法令関連施策	8 働きがいのある人間らしい雇用	・労働、雇用、産業や企業の育成、誘致などの取組み ・ローカルビジネス※9 ・長時間労働の是正や女性・若者の活躍推進
9	9 産業と雇用創出	強靱（レジリエント）なインフラ構築、包摂かつ持続可能な産業の促進及びイノベーションの推進を図る	・持続可能な社会づくりのために、レジリエント※10な産業を推進させ、災害などに強いインフラ※11を開発、整備し技術革新を促す	・交通、物流網 ・情報通信網 ・先端技術、環境技術、クリーン技術、資源利 ・用技術、技術革新 ・科学研究 ・産業の持続可能性の向上	9 先端技術を活用できるまちを築こう	・輸送インフラ（道路、公共交通）検討、整備 ・情報通信網の検討、整備 ・技術開発、利用、利用促進 ・災害に対する備え ・上記による産業の強靱化

※1 ジェンダー：社会的・文化的に作られる性別「男らしく、女らしく」「男らしく、女らしく」など。
 ※2 社会的包摂：社会が弱い立場にある人々を、その一員として取り込み支え合うこと。
 ※3 フェアトレード：途上国の経済的社会的に弱い立場にある生産者と経済的社会的に強い立場にある先進国の消費者が対等な立場で行う貿易。
 ※4 H I V（ヒト免疫不全ウイルス）（「Human Immunodeficiency Virus」の頭文字を取ったもの。）
 ※5 D V（ドメスティック・バイオレンス）：配偶者や恋人など親密な関係にある、又はあった者から振られる暴力。
 ※6 O J T（オージェンティブ）：地域の活性化につながる仕事、活動。
 ※7 ローカルビジネス：地域活性化に貢献する事業、活動。
 ※8 インテンシブ：インテンシブな活動の略で、生活や産業などの経済活動を営む上で不可欠な社会基盤と位置づけられ、公共の福祉のため整備・提供される施設の総称。
 ※9 ジェンダー：社会的・文化的に作られる性別「男らしく、女らしく」など。
 ※10 レジリエント：「強靱な、柔軟な、回復力のある」の意。

SDGs 解釈一覧及び奥州市版SDGs

SDGs	5P	概要	トピック	キーワード	奥州市版	アクションの例
10	人々の公平性 をなすこと	各国内及び各国間の不平等を是正する	・経済、性別、年齢、障害の有無、国籍、人種、宗教、性的マイノリティ※12などの不平等や差別の解消	・税制 ・社会保障 ・賞金 ・格差、不平等の解消	10 市民の公平 まちづくり	・税制の適正運用、執行 ・社会保障の構築、運用 ・相談（賞金、人権、差別）
11	Prosperity (豊かさ)	包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する	・持続可能なまちづくり ・災害に強く、歴史や文化がしっかりと守られ、そこに暮らす人々の安心を確保する	・住宅、オフィスの省エネルギー、再生可能エネルギー技術の導入 ・交通インフラの整備、再エネ技術導入 ・廃棄物 ・生活インフラ ・文化、自然遺産等の保護 ・防災、減災 ・緑地や公共スペースの確保	11 暮らしの質を高める まちづくり	・住宅等建築物に対する助成、補助 ・再生可能エネルギーの導入 ・再生可能エネルギーの情報発信 ・再生可能エネルギーに関する施策、まちづくり ・廃棄物、3R※13 ・防災、減災 ・文化財、遺跡の保護 ・持続可能なまちを構成する生活環境の構築（都市計画）
12	消費責任 の確保	持続可能な生産消費形態を確保する	・生活で使う商品やサービスを生産消費する方法を変えて環境負荷を減らしつつ、生活の質の向上を目指す	・食品ロス ・天然資源（化石燃料、水資源、森林資源）の消費 ・廃棄物削減 ・文化振興、産品販促、持続可能な取組を生かした観光業 ・児童、生徒への気候変動に関する教育、持続可能な発展に関する教育	12 暮らしの質を高める まちづくり	・食品ロス対策 ・廃棄物削減、3Rの取組み ・エネルギー消費（製造、加工、流通、消費）の改革、革新、新発案 ・持続可能な社会、環境に関する教育、学習 ・商工業など産業界の取組みや成果を観光やまちづくり、特設づくりなどへ二次利用 ・提供を受けるサービスや物品の購入先のESG※14のチェック
13	Planet (地球)	気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる	・自然災害に対するレジリエントなまちづくりと地球温暖化を原因とする気候変動への対策のための温室効果ガスの削減と低炭素社会への移行	・防災、減災 ・地球温暖化 ・低炭素社会 ・温室効果ガス（二酸化炭素、メタン、一酸化二窒素） ・食糧生産（農業、漁業などの温暖化対策） ・気候変動に関する教育、啓発、能力開発	13 気候変動 の対策	・防災、減災 ・エネルギー開発、需要、供給への取組み ・温室効果ガス削減のための監視と対策、実行 ・農業、漁業など食糧生産現場における温暖化対策（気象に対応した栽培技術の開発、生産における温室効果ガス削減取組み） ・教育、学習、能力開発の機会の創出、人材育成
14	海の豊かさ	持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する	・海、海洋資源、及びそこにつながる内水面の環境を守る	・河川、湖沼 ・産業排水、生活排水 ・水圏生態系の回復、保護 ・ゴミの削減、廃プラスチックの削減	14 海の豊かさ を守る	・下水、浄化槽の整備、維持 ・河川、湖沼など内水面における環境保全 ・ゴミ、廃プラスチックの排出削減
15	陸の豊かさ	陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、並びに土地の劣化の阻止、回復及び生物多様性の損失を防止する	・生物や天然資源を守る	・森林、湿地、乾燥地、山地 ・生物多様性 ・山地生態系 ・特定外来生物の駆除	15 陸の豊かさ を守る	・生物多様性の保護、回復 ・山地、森林、都市、内水面などの生物多様性や生態系の保護、回復の視点、施策
16	Peace (平和)	持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する	・人の権利を守る平和で公正な社会づくり	・公共的機関のコンプライアンス ・個人情報保護 ・情報セキュリティ ・あらゆる形態の暴力 ・子どもへの暴力、搾取 ・人権	16 平和で包摂的な社会 を築く	・暴力、犯罪の減少の取組み ・DV、子どもへの暴力の防止 ・個人情報保護 ・情報セキュリティの確保 ・透明性、公平公正が確保された行政（情報発信、制度の構築）
17	Partnership (連携)	持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化させる	・難しい課題や新しい課題の解決、SDGsの推進のために様々な立場の関係者で連携する	・企業、行政、研究機関、金融、労働、メディアの連携（「産官学金労言」） ・個人、団体の連携 ・実施手段の強化	17 みんなが 「つながる」 まちづくり	・ステークホルダー※15との連携 ・グローバル※16に限らず、ローカルでも

※12 性的マイノリティ：同性が好きな人や、自分の性に違和感を覚える人、または性別同一性障害などの人々のこと。
 ※13 3R：リデュース（Reduce）、リユース（Reuse）、リサイクル（Recycle）の3つのR（アール）の総称。限りある資源を有効に繰り返し使う社会を作ることとするもの。
 ※14 ESG：環境（Environment）、社会（Social）、ガバナンス（Governance）の頭文字を取って作られた言葉。ESGに配慮した取り組みを行うことは、長期的な成長を支える経営基盤の強化につながると考えられている。
 ※15 ステークホルダー：事業者等が活動をおこなうことによって何かしらの影響または利害関係が生じる相手を経営を総称する意味で用いられる言葉。
 ※16 グローバル：地球規模であるさま。全世界にわたるさま。

奥州市版SDGs アイコンのコンセプト・イメージ

アイコン	コンセプト・イメージ
	<p>人と人が手をつなぎあうイメージで、奥州市にしか作れない、真にオリジナルのアイコンとなるよう、『OSHU』をモチーフに作成しました。</p>
	<p>茶碗に奥州市のおいしい特産物というイメージから、市全域で作られている『米』を使用。</p> <p>さらに茶碗は、稲をご飯に見立て、『おいしい』口をしたデザインにしました。</p>
	<p>健康のイメージは『ハート』、しあわせのイメージは『クローバー』。</p> <p>これらを組み合わせてシンプルなデザインにしました。</p>
	<p>デジタル教育も進んでいますが、時代が変わっても色褪せない紙（本）で表現することとし、「自由に学ぶ＝読みたいものを誰もが自由に手に取れる図書館の棚」をイメージしたデザインとしました。</p>
	<p>『お互いを尊重し合う』というキャッチフレーズを、『1個の金メダルをかけ合う』デザインで表現しました。</p>
	<p>『永遠にきれいな水が出る蛇口』をイメージし表現しました。</p>
	<p>豊かな自然といえば森林、森林といえば樹木。</p> <p>また、エネルギーと言えば電気、電気といえばコンセント。</p> <p>豊かな自然とエネルギーを、この「樹木」と「コンセント」を組み合わせたデザインで作成しました。</p>
	<p>『働きがい』は企業（職場）そのものが作りだすべきもの！というイメージで作成しました。</p>
	<p>奥州市の先端技術として真っ先にあげられる、史上初のブラックホール観測に貢献した国立天文台をイメージし、ブラックホールとアンテナで表現しました。</p>

アイコン	コンセプト・イメージ
	<p>シーソーに左右対象のまちをデザインし、公平さを表現しました。</p>
	<p>歴史的建造物（古民家）と現代の建物が並んだ街並みをイメージし作成しました。 右端の建物はコンビニを表現し、「現代ならではの街並みの中に歴史的建造物が大事に残されている」ことが強調されるようなデザインとしました。</p>
	<p>奥州市のあらゆる資源を市章で『まるごと』に例えるとともに、リサイクルがイメージされるようなマーク（捨てない、無駄にしない）と組み合わせ、『まるごと余さず』を表現しました。</p>
	<p>どんな気候変動にも負けない大きな頑丈な傘がまちを守るイメージで作成しました。</p>
	<p>ゆっくり流れ、海までつながる北上川にしずくを合わせ、『きれいな北上川』がイメージできるようなデザインにしました。</p>
	<p>広葉樹と針葉樹それぞれをイメージしたものを並べ、広大で美しい森林を表現しました。</p>
	<p>『昼夜問わず永遠に安心・安全なまち』をイメージし作成しました。 「昼夜問わず」は昼夜の街並み、「安心・安全」はハートに見立てて表現しました。</p>
	<p>奥州市協働のまちづくり第3ステージのテーマ「つながる」と奥州市「協働のまちづくり」シンボルマーク※でパートナーシップを表現しました。</p>

※奥州市「協働のまちづくり」シンボルマーク

奥州市の「協働のまちづくり」を広く発信していくため、2016年12月に公募で選定。

水沢・江刺・前沢・胆沢・衣川の5つを丸（和）で表現。丸をつないで奥州市の協働のまちづくりの市民の心のつながりを意味します。中心は発信と成長していく芽と希望を表します。

用語索引と解説

カナ順	用語	編	初出		印	解説
			ページ	施策		
1	R P A	部門別計画	138	6-4-2	*3	(アールピーエー) ロボットによる業務の自動化。Robotic Process Automationの略。従来人間が実施してきた定型的なパソコン操作をソフトウェアのロボットにより自動化するもの。
2	I L C	本編	4	—	*2	(アイエルシー) 国際リニアコライダー。全長約20~50 kmの地下トンネル内に建設される、電子・陽電子衝突型の直線加速器を中心とした大規模研究施設のこと。質量の起源や時間と空間、宇宙誕生の謎の解明を目指す。International Linear Collider の略。
3	I o T	本編	28	—	*31	(アイオーティー) Internet of Things (インターネット オブ シングス) の略で、「様々な物がインターネットにつながること」「インターネットにつながる様々な物」を指す。
4	I C T	部門別計画	58	2-1	*3	(アイシーティー) コンピュータやインターネットなど情報・通信に関連する技術一般の総称。Information and Communication Technology の略。
5	赤ちゃんの駅	部門別計画	72	3-2-2	*2	乳幼児を連れて保護者が、外出時におむつ替えや授乳を行うことができるスペース。
6	新しい生活様式	本編	21	—	*26	感染症の感染拡大を防ぐために、飛沫感染や接触感染、さらには近距離での会話への対策を、これまで以上に日常生活に浸透させ、継続させる生活様式のこと。
7	アフターコロナ	部門別計画	102	4-3	*2	新型コロナウイルス感染症の流行後、または終息後の状態を指す。コロナ禍が社会にもたらした不可逆的な変化を前提とした上で用いられることが多い。
8	イノベーション	本編	4	—	*3	新製品開発、新生産方式導入、新市場開拓などにより、経済発展や景気浮揚などの好影響を引き起こされるという概念。
9	ウィズコロナ	部門別計画	102	4-3	*1	新型コロナウイルスが短期的には撲滅困難であることを前提として、ウイルスと共存しながら経済活動や社会生活を営むこと、または、そのための新たな戦略や生活様式全般のこと。
10	A I	本編	28	—	*32	(エーアイ) 人工知能。人間の思考プロセスと同じような形で動作するプログラム全般、あるいは、人間が知的と感じる情報処理・技術全般を指す。Artificial Intelligence。
11	A Iチャットボット	部門別計画	138	6-4-2	*4	AIを活用した自動会話ロボットのこと。AIとチャット(会話)、ロボットを組み合わせた言葉。
12	S N S	本編	17	—	*21	(エスエヌエス) 個人のコミュニケーションを促進し、ネットワークの構築を支援するネットサービス。Social Networking Service。
13	S D G s	本編	7	—	*10	(エスディージーズ) 「誰一人として取り残さない」持続可能な社会の実現を目指すための、国連で採択された「持続可能な開発目標」。
14	N P O	本編	7	—	*9	(エヌピーオー) 非営利組織。自主的、自発的に活動を展開する民間の非営利組織(団体)のこと。Non-Profit Organization。
15	LED化	部門別計画	60	2-1-2	*	(エルイーディー化) 照明をLED製品に取り替えること。LEDはLight Emitting Diodeの略で、電気を流すと光る性質を持つ半導体、いわゆる発光ダイオードを指し、従来の白熱電球や蛍光灯と比べて、寿命が長く、省電力で明るい可視光が効率よく得られ、環境負荷を低減できる。
16	おうしゅうエコ事業所登録制度	部門別計画	115	5-1-4	*1	事業者が環境負荷を低減させるための取組を自主的に定め、市に登録し実践するというもの。登録区分は、取組項目数などにより「☆☆☆」、「☆☆」の3種類がある。
17	汚水処理人口普及率	部門別計画	126	6-2	*1	汚水処理人口普及率=(下水道、農業集落排水及びコミュニティ・プラントにいつでも接続できるように整備された区域内の住民基本台帳人口及び、浄化槽(家庭雑排水も処理するものに限る)が整備された世帯の住民基本台帳人口)÷市住民基本台帳人口。
18	親子ライブラリー「えほんの森」	部門別計画	52	1-2-2	*	大きな絵本、紙芝居、図鑑、しかけ絵本、点字絵本など、乳幼児向けの多様な種類の絵本を配架し、親子で自由に本と触れ合い、楽しむことができる場所。授乳スペースがあり、スタッフによる読み聞かせも行っている。
19	温室効果ガス	部門別計画	111	5-1	*	太陽からの熱を地球に封じ込め、地表を暖める働きがある、大気中の二酸化炭素やメタンなどのガスのこと。
20	概成	部門別計画	129	6-2-3	*	ほぼ、出来上がること。ここでは、地域のニーズ及び周辺環境への影響を踏まえ、各種汚水処理施設の整備が概ね完了すること。
21	合併特例債	本編	11	—	*14	合併した市町村が新しいまちづくりに必要な事業に対する財源として、「新市建設計画」に基づき、借り入れすることができる地方債のこと。事業費の95%まで借り入れでき、毎年度返済する元利償還金の70%が普通交付税によって措置されるため、比較的利益な財源とされている。
22	環境基準	部門別計画	113	5-1-2	*	大気や土壌汚染、水質汚濁、騒音に関する環境上の条件について、人身を守り、環境を保全するうえで望ましい基準として定められたもの。

カナ順	用語	編	初出		印	解説
			ページ	施策		
23	関係人口	本編	28	—	*35	居住や移住の「定住人口」、仕事や観光の「交流人口」とは異なる、特定の地域と継続的かつ多様に関わる人々やその数のこと。観光以上、移住未滿と例えられることが多い。
24	かん養	部門別計画	88	4-1	*2	水田にたえられた水が地下に浸透することによる地下水の貯留や、森林の土壌が降水を貯留することにより、河川へ流れ込む水の量を平準化して洪水を緩和するとともに、川の流量を安定させる機能。
25	G I G Aスクール構想	部門別計画	58	2-1	*2	(ギガスクール構想) 一人一台の端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、特別な支援を必要とする子どもを含め、多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育ICT環境を実現するもの。
26	基礎的財政収支(プライマリーバランス)	本編	5	—	*7	借入金を除いた税金などの正味の歳入と、借入金返済のための元利払いを除いた歳出の収支。収支が均衡していれば、財政は健全であることを示す。
27	キャリア教育	部門別計画	107	4-4	*2	一人一人が自己の個性を理解し、社会的・職業的自立に必要な能力、態度を育てる教育のこと。
28	行政分野でのデジタル化やオンライン化	部門別計画	136	6-4	*1	市民の利便性向上や行政運営の効率化のため、申請や届出などの行政手続きを、情報通信技術の活用により簡素にしたり、時間や場所の制約なく、いつでもどこでもインターネット上で行えるようにしたりすること。
29	協働	本編	2	—	*1	各主体(市民、事業者、議会及び市(行政)といった団体及び個人)が、互いの自主性を尊重しつつ、それぞれの役割と責任に基づき、対等な立場で相互に補充し、協力すること。
30	協働の提案テーブル	部門別計画	47	1-1-3	*1	地域団体や市民公益活動団体などと市が、地域の課題を解決するため提案を持ち寄り、協働事業の具体化に向けて話し合いを行う場のこと。
31	グリーン・ツーリズム	部門別計画	102	4-3	*1	緑豊かな農山漁村地域において、自然や文化に親しみ、そこで暮らす人々との交流を楽しむ、滞在型の余暇活動のこと。
32	経常収支比率	本編	12	—	*18	毎年の継続的な収入に対して、人件費、扶助費、公債費、施設の維持管理費など、節減困難な経常経費が占める割合。この比率が高いほど、新しいサービスを行う余裕がないことを示す。
33	ゲートキーパー	本編	17	—	*22	自殺の危険を示すサインに気づき、声がけなどの適切な対応を図ることができる人。命の門番。
34	健康寿命	部門別計画	75	3-3	*1	介護を受けたり病気で寝たきりになったりせず、自立して健康に生活できる期間のこと。
35	合計特殊出生率	本編	30	—	*37	15歳から49歳までの女性の年齢別出生率を合計したものであり、1人の女性が一生の間に産むとされたときの子ども数に相当する。
36	公衆無線LAN	部門別計画	136	6-4	*2	公共空間で提供され利用できる、無線LANを活用したインターネット接続サービスのこと。公衆Wi-Fi。
37	交流人口	本編	5	—	*5	その地域を訪れる人々の数。通勤、通学者や観光客などを指す。
38	ご近所福祉スタッフ	部門別計画	68	3-1-2	*1	奥州市社会福祉協議会の会長が委嘱する地域福祉の推進者。関係機関と連携し、地域で困っている高齢者や障がい者等、援助を必要とする本人及び家族の日常生活のサポートや近所の助け合い活動を促し、住民参加の地域福祉活動のリーダーとして、行政区長や民生委員等とともに活動する。
39	子ども発達支援センター	部門別計画	72	3-2-2	*5	心身障がい及び発達に課題のある児童とその保護者に対する相談、検査、療育指導を行う機関。
40	コミュニティバス	部門別計画	132	6-3	*	自治体が住民の移動手段を確保するために運行する路線バスのことをいう。一般的に、民間バス事業者に運行を委託するなどし、必要に応じ地方公共団体が経済的支援を行う。
41	コミュニティ・プラント	部門別計画	126	6-2	*2	廃棄物処理法の「一般廃棄物処理計画」に従い、市町村が設置する小規模な下水処理施設。公共下水道や農業集落排水と同様に、埋設された排水管によって集められたし尿と生活雑排水を合わせて処理する。
42	コンパクトシティ	部門別計画	134	6-3-2	*	都市的土地利用の郊外への拡大を抑制すると同時に中心市街地の活性化が図られた、生活に必要な諸機能が近接した効率的で持続可能な都市、もしくはそれを目指した都市政策のこと。都市構造の特徴として、一般的には、高密度で近接した開発形態、公共交通機関でつながった市街地、地域のサービスや職場までの移動の容易さなどが挙げられる。
43	再生可能エネルギー	本編	4	—	*4	太陽光や太陽熱、水力、風力、バイオマス、地熱などの、一度利用しても比較的短期間に再生が可能であり、資源が枯渇しないエネルギーのこと。
44	財政調整基金	本編	12	—	*17	地方公共団体が年度間の財源の変動に備えて積み立てる基金。一般的に、財源に余裕がある年度に積み立てておき、災害など必要やむを得ない理由で財源不足が生じた年度に活用する。
45	SUP	部門別計画	105	4-3-3	*	(サップ) スタンドアップパドルボードの略で、大きめのボードの上に立ち、パドルを漕いで水面を進んでいくウォーターアクティビティ。
46	産学官	部門別計画	100	4-2-4	*	産は民間企業、学は教育・研究機関、官は国・地方公共団体を指す。

カナ順	用語	編	初出		印	解説
			ページ	施策		
47	シティプロモーション	本編	24	—	*30	地域愛の醸成や知名度の向上を図り、ヒト・モノ・カネを呼び込み、地域を活性化させる活動。
48	シビックプライド	本編	28	—	*36	まちに対する市民の誇りや愛着。
49	市民活動支援センター	部門別計画	47	1-1-3	*2	市民に対する市民公益活動の啓発、情報交換、各種相談対応、交流連携促進の場の提供などの業務を行う、市民公益活動支援の拠点。
50	市民公益活動団体	本編	23	—	*29	社会一般の利益に資する自立的、主体的、計画的、持続的な非営利活動、いわゆる市民公益活動を行う、NPO法人やボランティア団体など。
51	周産期医療	本編	11	—	*13	周産期（妊娠22週から生後7日未満）とその前後の期間の母体・胎児・新生児に生じがちな突発事態に対応するための産科、小児科による総合的な医療体制。
52	重点地域商店街	部門別計画	97	4-2-1	*	商店が集積し、商店街振興組合等が組織されており、商店街活性化のための事業を集中的かつ効果的に行える、水沢駅周辺、江刺総合支所周辺、前沢駅周辺の3つの地域のこと。
53	小地域ネットワーク	部門別計画	67	3-1-1	*1	地域の中で気づいたことや困ったことの解決に向けた話し合いをするなど、住民が地域福祉を進めていくための活動のこと。
54	情報システムの標準化・共通化	部門別計画	138	6-4-2	*2	自治体における基幹系システムにおいて、国が定めた標準仕様に準拠したシステム（データ定義等も含む）へ移行もしくは統一すること。
55	ジョブカフェ奥州	部門別計画	108	4-4-1	*1	若者等が自分にあった仕事を見つけるためのいろいろな支援をうけられる場所で、就職セミナーや職場体験、就労相談などを行っている。
56	新型コロナウイルス	本編	7	—	*12	2019（令和元）年に発見された、コロナウイルスの一種。他に、ヒトに感染するコロナウイルスには、一般の風邪の病原体として人類に広く蔓延している4種類や令和元年度に市町村や都道府県に対して譲与が開始されており、それぞれの地域の実情に応じて、森林整備及びその促進に関する事業を幅広く弾力的に実施するための財源として活用されるもの。
57	森林環境譲与税	部門別計画	94	4-1-6	*	令和元年度に市町村や都道府県に対して譲与が開始されており、それぞれの地域の実情に応じて、森林整備及びその促進に関する事業を幅広く弾力的に実施するための財源として活用されるもの。
58	水道管の耐震化率	部門別計画	128	6-2-2	*2	水道管総延長に占める耐震管延長の割合。
59	スクリーニング	部門別計画	77	3-3-2	*	ふるい分けること。多数の中から特定の条件に合うものを抽出するために簡易な検査を用いて選別すること。
60	スケールメリット	本編	23	—	*28	規模を大きくすることによって得られる効果や利益のこと。
61	ストックマネジメント	部門別計画	126	6-2	*3	施設の深刻な機能低下が発生する前に、機能診断に基づく適切な予防保全対策を実施し、ライフサイクルコストの低減を図る方策のこと。
62	スポーツリーダーバンク	部門別計画	55	1-3-1	*	県内各地域のスポーツ活動・スポーツレクリエーション活動の普及と発展、また、地域のスポーツ振興やスポーツを通じたコミュニケーションのさらなる充実を目的とした、指導者の派遣紹介のための登録組織。
63	3R	本編	15	—	*20	（スリーアール）Reduce（減らす）、Reuse（繰り返し使う）、Recycle（再資源化する）の3つのRの総称。
64	生活支援コーディネーター	部門別計画	79	3-4-1	*2	地域における高齢者の生活支援や介護予防のニーズ・資源を把握し、支え合い体制やネットワークづくり、ニーズと資源のマッチングを行う人。
65	成年後見制度	部門別計画	79	3-4-1	*1	認知症の人、知的障がい者及び精神障がい者などの判断能力が十分でない人の財産管理や、介護、施設への入退所などの生活に配慮する身上監護を、本人に代わって法的に代理や同意、取消しをする権限を与えられた成年後見人等が行うことによって、本人の利益を保護し、権利が守られるように支援する制度。
66	世界遺産「平泉」	部門別計画	61	2-2	*	「世界遺産」とは、「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約」に基づき、全世界の人々の共有財産として国際的に保護・保全していくことが義務付けられている「遺跡」や「建造物」、「自然」などのこと。「平泉」は、平成23年の第35回ユネスコ世界遺産委員会において、「平泉一仏国土（浄土）を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群」として世界遺産登録された。
67	接続カリキュラム	部門別計画	58	2-1	*5	小学校と保育所・幼稚園等との連携を強化し、子どもたちの小学校生活への円滑な移行のため、「生活の接続」と「学びの接続」を考え、互いを理解し見通しを持った保育・教育が進められるよう、保育者及び教職員等の指導の目安として作成するもの。
68	全国学力・学習状況調査	部門別計画	58	2-1	*4	文部科学省で全国的に子どもたちの学力状況を把握するために実施している学力調査のこと。
69	全国体力・運動能力調査	部門別計画	59	2-1-1	*	スポーツ庁で全国的に子どもたちの体力状況を把握するために実施している体力調査のこと。
70	総合型地域スポーツクラブ	部門別計画	57	1-3-3	*	地域の人々に、年齢、興味関心、技術技能レベル等に応じた様々なスポーツ機会を提供する場。
71	Society 5.0	本編	7	—	*11	（ソサエティ5.0）政府が提唱する科学技術政策。高度な科学技術を活用して、経済発展と社会的課題の解決を両立し、快適で質の高い生活を送ることのできる社会を目指すこと。
72	体験型観光	部門別計画	102	4-3	*3	その地域でしか体験できない要素を取り入れた旅行の形態のこと。

カナ順	用語	編	初出		印	解説
			ページ	施策		
73	タブレット端末	部門別計画	136	6-4	*5	薄い板状の、軽量パソコンの一種。片側全面が液晶画面になっており、キーボードはなく、タッチパネル式の入力インターフェースをもつ。無線通信機能を備え、通信やインターネットの利用ができる。
74	多文化共生	本編	14	—	*19	国籍や民族などの異なる人々が文化的な違いを認め合い、対等な関係を築こうとしながら共に生きていくこと。
75	多面的機能支払交付金制度	部門別計画	93	4-1-5	*1	農業・農村の有する多面的機能の維持・発揮を図るための地域の共同活動に係る支援を行い、地域資源の適切な保全管理を推進する制度。
76	地域農業マスタープラン	部門別計画	88	4-1	*1	農業者が話し合いに基づき、地域農業における中心経営体、地域における農業の将来のあり方などを明確にし、市町村が公表するもの。
77	地域包括ケアシステム	部門別計画	85	3-6	*	高齢者が要介護状態になっても、住み慣れた地域で自分らしい生活を最期まで送れるように、地域でサポートし合う社会システムのこと。
78	地域包括支援センター	部門別計画	78	3-4	*	介護保険法で定められた、地域住民の保健福祉・医療の向上、虐待防止、介護予防マネジメントなどを総合的に行う機関。センターには、保健師、主任ケアマネジャー、社会福祉士が置かれ、専門性を生かして相互連携しながら業務にあたる。
79	中山間地域	部門別計画	88	4-1	*	農業地域類型区分のうち、中間農業地域と山間農業地域を合わせた地域。国土の約7割、全国の耕地面積と総農家数の約3割を占める。土の流出や土砂崩れを防ぐなどの多面的機能を有すが、地形上、農業生産条件が不利な地域でもある。
80	中山間地域等直接支払制度	部門別計画	93	4-1-5	*2	平地との農業生産条件の不利を補正するための交付金により、農業生産活動を維持し、多面的機能の確保を図る制度。
81	超高速ブロードバンド	本編	12	—	*15	ブロードバンドとは、広帯域の意。高速通信回線によるコンピュータ・ネットワーク、及びこれを利用した大容量データ送信サービスの総称。このうち、一般的に下り（ダウンロード）の速度が30Mビット/秒以上のものを超高速ブロードバンドという。
82	長寿命化	本編	5	—	*6	公共施設等をより長く安全に使用できるよう、予防的な修繕を計画的に進めていくこと。
83	ツイッターのフォロワー数	部門別計画	45	1-1-1	*	あるツイッターのアカウントに対して、そのツイートを受け取るアカウントをフォロワーといい、フォロワー数はその数を指す。
84	定住自立圏	本編	6	—	*8	定住自立圏構想に基づき、中心市と近隣市町村が主体的に役割分担、連携、協力することにより、必要な生活機能等を圏域全体で確保し、定住の受け皿となる地域を形成する枠組みのこと。奥州市では、「奥州・北上・金ヶ崎・西和賀（日高見の国）定住自立圏共生ビジョン」に基づいて取組んでいる。
85	デジタル3原則	部門別計画	136	6-4	*4	①デジタルファースト（手続きをデジタルで完結）、②ワンスオンリー（情報の再提出不要）、③コネクテッド・ワンストップ（一ヶ所でのサービス完結）をいう。
86	デジタル・デバイド	部門別計画	136	6-4	*3	インターネットやコンピューター等の情報技術を利用する能力、及びアクセスする機会を持つ者と持たざる者との間に生じる格差のこと。情報格差。
87	D X	本編	12	—	*16	（デジタル・トランスフォーメーション）情報通信技術の浸透が人々の生活をあらゆる面でよりよい方向に変化させること。
88	テレワーク	本編	18	—	*23	コンピューターやインターネットなどの情報通信技術を利用し、場所や時間にとらわれずに勤務する勤務形態。
89	特殊詐欺	部門別計画	116	5-2	*	犯人が電話などで親族や公共機関の職員を名乗り、現金やキャッシュカードをだまし取ったり、還付金を受け取れるなどとだましてATMを操作させ、犯人の口座に送金させたりする詐欺罪の総称。
90	特別支援教育コーディネーター	部門別計画	59	2-1-1	*	特別に支援が必要な児童生徒への適切な支援のために、関係機関・関係者間を連絡・調整し、協同的に対応できるようにするための役割として指名されている者。
91	D V	部門別計画	72	3-2-2	*4	（ドメスティックバイオレンス）配偶者や恋人、パートナーなど親密な関係（過去も含む）にある男女間での暴力行為。身体的、精神的、経済的、社会的、性的暴力など多岐にわたる。
92	内発型産業	部門別計画	95	4-2	*	公共事業や誘発型産業に依存するのではなく、地域の特性を活かしながら、自らの創意に基づいた産業を興すことで、地域経済の自立を目指す産業形態のこと。
93	日本型直接支払制度	部門別計画	93	4-1-5	*	農業・農村の多面的機能の維持・発揮を図るため、地域の共同活動、中山間地域等における農業生産活動、自然環境の保全に資する農業生産活動を支援する制度。
94	ニュースポーツ	部門別計画	54	1-3	*	子どもからお年寄りまで誰もが気軽に楽しめるように、技術やルールを比較的簡単にして考案された、新たなスポーツのこと。
95	認定こども園	部門別計画	71	3-2-1	*1	都道府県が認定した施設で、保護者の労働の有無に関わらず就学前の子どもを受け入れて、教育・保育を一体的に実施し地域における子育て支援を行う。
96	ノーマライゼーション	部門別計画	82	3-5	*	障がい者と健常者が分け隔てなく普通に共存できる社会こそがノーマル（正常）な状態であるという考え方のもとに行われる施策、またはその推進のための運動のこと。

カナ順	用語	編	初出		印	解説
			ページ	施策		
97	バイオマス	部門別計画	115	5-1-4	*2	再生可能な植物由来の有機性エネルギーや資源(化石燃料は除く)をいうことが多い。基本的には草食動物の排泄物を含め1年から数十年で再生産できる植物体を起源とするものを指す。
98	ハザードマップ	部門別計画	120	5-3-1	*	洪水による浸水想定地域、土砂災害危険箇所等の情報や避難所、避難場所等の防災情報を表示した地図のこと。
99	働き方改革	本編	18	—	*25	労働者の置かれた個々の事情に応じ、多様な働き方を選択できる社会を実現し、働く方一人ひとりがより良い将来の展望を持てるようにすることを目指すもの。
100	ハローワーク	部門別計画	108	4-4-1	*2	就職困難者を中心に支援するセーフティネットとしての役割を担う国の機関で、公共職業安定所のことをいう。地域の総合的雇用サービス機関として、職業紹介、雇用保険、雇用対策などの業務を一体的に実施している。
101	ビッグデータ	本編	28	—	*33	様々な形をした、様々な性格を持った、様々な種類のデータの中で、従来のデータベース管理システムなどでは記録や保管、解析が難しいような巨大なデータ群。
102	避難行動要支援者	部門別計画	67	3-1-1	*3	高齢者、障がい者、難病患者など、災害時の避難に第三者の手助けを特に要する人。
103	5 G	本編	28	—	*34	(ファイブジー) 第5世代通信。4Gに続く次世代通信技術のことで、「高速大容量・低遅延・多接続性」を生かし、普及が進めばあらゆるものがネットワークにつながるIoT化が進むと言われている。
104	ファミリーサポートセンター	部門別計画	72	3-2-2	*1	子育てを地域で相互援助するお手伝いをする組織。育児の援助を受けたい人で行いたい人が会員となり、センターが仲介して会員同士が支え合うもの。
105	ふれあいいきいきサロン	部門別計画	67	3-1-1	*2	高齢者や障がい者、子育て世代等が集まり、お茶のみやレクリエーション等の多様な活動をする場。
106	放課後児童クラブ	部門別計画	71	3-2-1	*2	共働き家庭など、保護者が昼間家庭にいない児童に対し、授業の終了後等に適切な遊び場及び生活の場を提供し、児童の健全な育成を図るもの。
107	マイクロツーリズム	本編	18	—	*24	自宅から近隣への観光を指し、感染症感染リスクを避けやすいことから、リピーターを作りやすい仕組みとされている。
108	マイナポータル	部門別計画	138	6-4-2	*1	政府が運営するオンラインサービスで、一定の行政手続きの検索やオンライン申請がワンストップでき、行政機関からの通知を受け取ることができる。
109	まなびフェスト	部門別計画	58	2-1	*1	教職員、児童生徒、保護者等が目標を共有し、協同して達成を目指すという考えのもと、目標が達成できたかどうかの判断基準となる数値や状態を目標に取り入れた教育活動の計画のこと。
110	みまもりおーネット	部門別計画	68	3-1-2	*2	奥州市地域見守り支援ネットワークの愛称。高齢者の孤立防止や消費者被害の防止等に地域全体で取り組むことを目的とし、民間事業者の協力をいただきながら、地域の中の見守る人・見守られる人を特定しない形で進める見守り活動。
111	メタボリックシンドローム	部門別計画	75	3-3	*2	内臓脂肪型肥満に加えて、高血糖、高血圧、脂質異常のうちいずれか2つ以上を合わせもった状態。内臓脂肪症候群。
112	ヤングケアラー	部門別計画	72	3-2-2	*3	本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っている子どものこと。
113	U I J ターン	部門別計画	107	4-4	*1	(ユーアイジェイターン) Uターンは、地方から別の地域へ移住した後出身地へ戻ること。Iターンは、生まれ育った大都市圏から別の地方へ移住すること。Jターンは、地方から大都市圏に移住し、その後出身地近くの地方都市へ移住すること。
114	有収率	部門別計画	128	6-2-2	*1	供給した配水量に対する料金徴収の対象となった水量の割合のこと。水道事業の効率性を計る一つの指標。
115	ラフティング	部門別計画	102	4-3	*2	多人数用のゴムボートに乗り、川下りを楽しむウォーターアクティビティ。
116	6次産業化	部門別計画	92	4-1-4	*	第1次産業(農林漁業)従事者が、生産だけでなく、加工・流通販売を行い、経営の多角化、収益向上を目指すもの。
117	ワークショップ	本編	22	—	*27	参加者全員が自由に発言することができ、様々なアイデアを出し合い、課題解決や新発見などにつながる話し合いの場。
118	ワンストップ	部門別計画	96	4-2	*	関連する複数の情報・手続き等が一ヶ所で案内できるようになっていること。